



子どもの最善の利益を目指して 私たちがなすべきこと ～教育改革の優先課題としての視点の確立を～

全日本私立幼稚園連合会 会長 香 川 敬

私立幼稚園は今、園の実情を踏まえながら経営に係る課題を明確にし、新たな船出をすることが求められています。国においては『子ども・子育て支援新制度』の構築に向けての取組みが加速化していますが、「子ども不在」の論議としか言わざるを得ないほど課題が山積み、幼児教育・保育の現場からの懸念は払拭されていない状況にあります。

今からさかのぼること9年前、平成17年1月に幼児教育に関する初めての包括的答申として注目すべき中教審答申が出されました。この答申は、幼児教育を教育改革の優先課題として捉え、幼児教育分野への重点的な資源投入を図る必要があると述べています。

子どもの最善の利益を目指すために、私立幼稚園教育の充実を図ろうとしている私たちは、平成17年中教審答申の趣旨に副うべく、教育条件の向上、預かり保育への財政支援の充実を図るとともに、教育・保育に対する保護者や地域社会の信頼に積極的に応え、その役割を果たすべく幼稚園制度の根幹に関わる議論を進めることも必要であると考えています。

大和言葉の「まねび」は、人間関係を基盤とする文化の伝承と再創造という活動を意味しています。江戸時代では、「学び」とは「誠」「真」を探究するいとなみのことであり、旧字体の「學」という漢字

は、大人が手を差しのべ心をくだしているその中で、子どもたちが交わっている様子を表しているそうです。

子どもたちが、より深く多くの他者とともに交わり、味わい、認め合うべきことを学びいとなみを支えていくのは、私たち大人、保育者の「教える」行為です。かけがえのない子どもたち一人一人を、よりよい方向に導いてやりたい、という愛憐の情をもなう指導、情報提示が“教える”ということと捉えたいと考えます。

子どもたちの学びを継続させ、人としての学びをどう深めさせていくのか、教育・保育に携わる者がその鍵を握っているのです。

いかなる状況にあろうとも、私たちは教育者としての誇りと使命感をもち、子どもの最善の利益を目指して、子どもたちの内面の育ちを大切にし、生活の連続性、発達や学びの順序性を踏まえたより質の高い幼稚園教育の充実・発展に努めていかなければなりません。

そのためにも、私たちは高い志を持って一致団結し、国の政策への関与を高め、政府への要望を実現すべく、最大限の活動をしていくことが肝要です。皆様方にはご支援、ご協力、ご指導を賜りますよう、心より、お願い申し上げる次第です。

(山口県防府市・鞠生幼稚園)

会長に香川敬氏(山口)が就任

北條氏(東京)、澤田氏(北海道)、村山氏(宮城)、田中氏(京都)、尾上氏(福岡)が副会長に

平成 26 年度 定時総会 5 月 21 日 東京・私学会館

平成 26 年度の定時総会は 5 月 21 日(水)、東京・私学会館において全国から、評議員 124 人(委任状 30 人)が出席して開催されました。

村山十五副会長の開会の言葉に続き、香川敬会長から「全日私幼連は 30 周年を迎えます。これからも子どもたちの最善の利益を追求してまいります。子ども・子育て支援新制度は、公定価格が提示されます 6・7 月がいよいよ天王山を迎えます。全国の団体長の勝負の時です。この制度が本当の意味で、幼児教育にとってプラスになる制度となりますよう共にがんばりましょう」と挨拶がありました。

続いて、来賓として、文部科学大臣・下村博文衆議院議員、全日本私立幼稚園 P T A 連合会副会長・自由民主党教育再生実行本部本部長・遠藤利明衆議院議員、全日本私立幼稚園 P T A 連合会副会長・自由民主党文部科学部会幼児教育小委員会委員長・山本順三参議院議員、自由民主党幼児教育議員連盟事務局長・馳浩衆議院議員をお招きし挨拶いただきました。また、文部科学省からは山中伸一事務次官、蝦名喜之初等中等教育局幼児教育課長がご出席され、山中事務次官より挨拶をいただきました。

その後、議長の選出に移り、伊藤園子(愛知・いとう幼稚園)、安家周一(大阪・あけぼの幼稚園)両氏を選出し、続いて 12 人の議事運営委員が紹介され、相田芳久議事運営委員長(静岡・焼津豊田幼稚園)から総会成立の確認、議案と議事進行について説明がありました。

議事録署名人には、石井幸男氏(埼玉・親和幼稚



文部科学大臣
下村博文・衆議院議員



全日私幼 P T A 連合会副会長
自民党教育再生実行本部本部長
遠藤利明・衆議院議員



全日私幼 P T A 連合会副会長
自民党文部科学部会幼児教育
小委員会委員長
山本順三・参議院議員



自民党幼児教育議員連盟
事務局長
馳 浩・衆議院議員

園)、内橋彰氏(長崎・東相浦幼稚園)を選出し、議事に入りました。

●審議事項(1)平成 25 年度事業報告・収支決算承認の件については、各委員会委員長からの事業報告、こどもがまんなか P R O J E C T 企画推進会議からも報告がありました。続いて、鈴木伸司総務副委員長から収支決算について説明が行われ、井元詔一監事から厳正かつ正確に処理されている旨の監査報告があり、拍手多数で承認されま

した。

- 審議事項（２）平成 26 年度事業計画案・収支予算案承認の件については、田中辰実総務委員長から事業計画の趣旨説明があり、続いて各委員会委員長が事業計画案の説明を行いました。次に、鈴木総務副委員長が収支予算案を説明しました。原案が拍手多数で承認されました。

- 審議事項（３）全日私幼連会則改正承認の件については、田中総務委員長から改正案についての説明があり、議場封鎖の上、挙手による採決が行われ、出席評議員の 4 分の 3 以上の賛成があり承認されました。

- 審議事項（４）役員改選の件について、田中総務委員長から正副会長の候補者について報告がありました。

会 長 香川 敬（山口・鞠生幼稚園）

副会長 北條泰雅（東京・みなと幼稚園）

// 澤田 豊（北海道・リリー文化幼稚園）

// 村山十五（宮城・村山学園）

// 田中雅道（京都・光明幼稚園）

// 尾上正史（福岡・紅葉幼稚園）

原案が拍手多数で承認されました。

香川敬会長より「新制度のもと、改めて幼児教育を見直し、また人口減少を迎えるが更なる組織強化を進めてまいりたい」との挨拶がありました。

監事の選任について、候補者の報告がありました。

監 事 町山芳夫（東京・まどか幼稚園）

田中邦昌（静岡・みのる認定こども園）

原 孝枝（徳島・白うめ幼稚園）

原案が拍手多数で承認されました。

次に、行政報告として、文部科学省幼児教育課の蝦名喜之課長より「施設型給付費等の支給を受ける子どもの認定区分、子ども・子育て新制度における幼稚園の選択肢、保育所標準時間・短時間（２号・３号）認定に係る公定価格の基本イメージ、教育標準時間（１号）認定に係る公定価格の基本イメージ、子ども・子育て支援の量的拡充と質の改善（所要額）



▲左から香川会長、澤田副会長、村山副会長、北條副会長、尾上副会長、田中副会長

（案）、幼稚園の単価表（イメージ）（地域 7 区分・定員 17 区分 119 通り）等」について、報告がありました。時間の関係で、坪井久也政策委員長が代表して保護者負担について、認定こども園の公定価格について、公定価格における減価償却費の設定について、102 条園の移行について質問し、蝦名喜之課長より説明をいただきました。

また、報告事項として、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 田中雅道理事長より、教育の質を含めた第三者評価として、公開保育コーディネーターを養成し、公開保育を実施していくことについて報告がありました。また、教員免許のない園長に対する園長研修を平成 26 年度に検討したいとの報告がありました。続いて、坪井政策委員長より、公定価格の発表を踏まえ、6 月中に第 4 回地方版子ども・子育て会議対応研修会を実施したい旨の報告がありました。

最後に尾上正史副会長の閉会の言葉で終了しました。

（調査広報副委員長・波岡伸郎）

☆新しい団体長（平成 26 年 6 月 4 日現在）

青森県＝棟方重幸・愛育

埼玉県＝四ツ釜雅彦・菖蒲

千葉県＝小島宮子・岩木

神奈川県＝小澤俊通・厚木田園

長野県＝窪田英一・篠ノ井学園

鳥取県＝波多野和雄・あけぼの

*氏名・幼稚園名／敬称略

全日私幼連 平成 25 年度事業報告

= 総務委員会 =

委員長＝田中辰実、副委員長＝佐藤三幹、鈴木伸司、委員＝横田大樹、滝田昌孝、篠田佳幸、長岡龍男、萩谷雅一、森本嘉一、仁保一正、内橋彰、委員会＝5 回開催

平成 25 年度は、①正副会長正副理事長（拡大を含む）委員長会を開催し、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構及び各委員会の活動状況報告ならびに情報交換を行った。②予算・決算および会計その他財務全般に関する会務執行状況の確認を行った。③会務執行上、一般会計予算・特別会計予算の補正を行った。④ＪＫ保険の内容を検討し、加入促進に努めた。⑤こどもがまんなか PROJECT の協力募金活動を行った。⑥フィリピンの台風 30 号災害で被災を受けた子どもたちのために義捐金活動を行なった。⑦会則改正についての検討を行った。⑧幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化対策本部、子ども・子育て関連 3 法対策本部など各種会議の内容について検討した。

全日私幼連の諸活動の財源である一般会費は年度内に完納していただき、また幼児教育の無償化・子ども子育て支援新制度対応を目的とした臨時会費についても別紙記載のとおり、ご納入いただきましたことにお礼申しあげ、ご報告申しあげます。

【具体的活動内容】

1. 会議の開催／（１）定時総会：5 月 22 日東京・私学会館（出席者 124 人）（２）理事会：5 月 8 日東京・グランドヒル市ヶ谷（出席者 59 人）12 月 4 日東京・私学会館（合同・出席者 55 人）平成 26 年 1 月 30 日東京・私学会館（合同・出席者 58 人）3 月 5 日東京・私学会館（合同・出席者 56 人）（３）常任理事会：4 月 24 日東京・私学会館（出席者 24 人）5 月 22 日東京・私学会館（臨時・出席者 25 人）

6 月 6 日東京・私学会館（出席者 21 人）9 月 10 日東京・私学会館（出席者 26 人）11 月 20 日東京・私学会館（出席者 23 人）12 月 4 日東京・私学会館（臨時・出席者 25 人）平成 26 年 2 月 19 日東京・私学会館（出席者 25 人）（４）団体長会：12 月 4 日東京・私学会館（合同・出席者 42 人）平成 26 年 1 月 30 日東京・私学会館（合同・出席者 45 人）3 月 5 日東京・私学会館（合同・出席者 46 人）（５）地区会会長会：11 月 20 日東京・私学会館（出席者 20 人）（６）監査会：4 月 19 日東京・全日私幼連事務局（出席者 8 人）10 月 29 日東京・全日私幼連事務局（出席者 7 人）4 月 18 日東京・私学会館（出席者 7 人）（７）幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化対策本部／子ども・子育て関連 3 法対策本部合同会議：4 月 16 日東京・私学会館（出席者 24 人）5 月 13 日東京・私学会館（出席者 21 人）6 月 6 日東京・私学会館（出席者 21 人）9 月 10 日東京・私学会館（出席者 23 人）（８）地方版子ども・子育て会議対応研修会：6 月 26 日東京・私学会館（出席者 240 人）9 月 26 日東京・東京ガーデンパレス（出席者 220 人）平成 26 年 2 月 17 日東京・東京ガーデンパレス（出席者 110 人）（９）子ども・子育て新制度対応のための合同会議：11 月 12 日東京・私学会館（出席者 60 人）2. 関係団体との連絡／（１）内閣府：男女共同参画推進連携会議／委員・香川敬（２）子ども・子育て会議・基準検討部会／委員・北條泰雅（３）文部科学省：私学共済年金研究会／協力者・村山十五、中央教育審議会初等中等教育分科会／臨時委員・北條泰雅、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会／臨時委員・北條泰雅、特別支援教育ネットワーク推進委員会／委員・安家周一、教員資格認定試験／委員・安家周一、学校法人会計基準の在り方に関する検討委員会／委員・村山十五（４）厚生労

働省／児童虐待防止対策協議会：委員・香川敬（５）
日本私立学校振興・共済事業団／共済運営委員会／
委員・村山十五、共済年金制度研究委員会／委員・
村山十五（６）私学研修福祉会／理事・村山十五、
評議員／尾上正史（７）全私学連合代表者会議／委
員・香川敬、北條泰雅、村山十五、尾上正史（８）
全国私立学校審議会連合会／副会長・入谷幸二（９）
日本ユニセフ協会／顧問・香川敬（１０）OME P
日本委員会／理事・香川敬（１１）日本防火協会／
評議員・入谷幸二（１２）日本スポーツ振興センタ
ー学校安全推進会議／委員・村山十五

３．役員出張／各地区の研修会や地区会・都道府県
団体に役職員が出張した。香川会長講師出張：北海
道、福島県、岐阜県、三重県、広島県、福岡県他

４．表彰事業／永年勤続表彰：５０年以上の設置者・
園長 ３１人、教職員 １３人。４０年以上の設置者・
園長 ５０人、教職員 ４１人。３０年以上の設置者・
園長 ５２人、教職員 １４１人。２０年以上の設置者・
園長 ３８人、教職員 ３５７人。合計 ７２３人。

５．全日私幼連要覧の作製／２０１４年版の要覧
（Vol.27）を作成し、全日私幼連ホームページに掲
載した。

６．保険・福利厚生に関する事項／全日私幼連保険
制度の理解を深め、その充実と加入促進を図り実績
をあげた。

７．推薦、協力、後援／推薦：①平成 ２５年度版・

たのしいなつやすみ（チャイルド本社）②平成 ２５
年度版・なつのおともだち（フレーベル館）③映画
「それいけ！アンパンマンとばせ希望のハンカチ」
（フレーベル館）、協力：平成 ２６年度第 ６８回児童
福祉週間（厚生労働省）、後援：①平成 ２５年度こ
ども環境管理士資格試験（日本生態系協会）②第 ８
回子ども身体運動発達指導士養成講習会（日本スポ
ーツクラブ協会）③平成 ２５年度就職説明会（全千
葉県私立幼稚園連合会）④第 ３４回全国歯科保健大
会（厚生労働省）⑤第 ８回香川県私学振興大会（香
川県私立中学高等学校保護者会）⑥平成 ２５年度高
知県私立幼稚園 P T A 大会（高知県私立幼稚園 P T
A 連合会）⑦子育てフォーラム・インとくしま ２６（徳
島県私立幼稚園協会）⑧子どもの虐待防止推進全国
フォーラム in おおいた（厚生労働省）⑨第 ５回ユ
ネスコ・スクール全国大会（文部科学省）⑩第 ４７
回全国子ども会育成中央会議・研究大会（全国子ど
も会連合会）⑪第 ６３回全国幼児教育研究大会（全
国幼児教育研究協会）⑫第 １５回全国学校飼育動物
研究大会（全国学校飼育動物研究会）⑬世界自閉症
啓発デー・シンポジウム（日本自閉症協会）⑭先生
ありがとうの日（サンケイリビング新聞社）協賛：
①平成 ２５年春・秋の全国交通安全運動（内閣府）
②平成 ２６年度「道路ふれあい月間」（国土交通省）



優れた芸術家の作品を、
子どもたちの生活環境へ。
見て、触れて、感じながら、
子どもたちの心は、
大きく羽を広げます。

「喜ぶ少女」

株式会社 **ジャクエツ**
www.jakuetsu.co.jp

= 政策委員会 =

委員長＝坪井久也、副委員長＝松下瑞應、服部高明、委員＝前田元照、渡辺丈夫、船田弘和、畑佐耕一郎、濱川喜亘、小澤俊通、和田典善、川杉省三、奥野宏、光岡美恵子、寺尾好洋、委員会＝5回開催

平成25年度は、本連合会の総力を挙げて幼児教育の無償化を求める全国的な署名活動からスタートした。全国で約450万人の署名が集まり、さらに全国紙2紙への意見広告、地区ごとのフォーラム開催などの大きな運動を背景に、7月に全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会を開催し、安倍内閣総理大臣に直接、幼児教育の無償化を強く要望した。また、参議院選挙においては幼児教育に理解のある幼児教育議員連盟の議員の方々を中心に支援した。

子ども・子育て支援新制度は、4月から開催されている国の子ども・子育て会議の場で、ニーズ調査の内容、基本指針（案）、新幼保連携型認定こども園の基準、保育の必要性の認定、公定価格などが議論され、順次その内容が固まりつつある。本連合会としては特に、認定こども園への移行特例、公定価格の内容・水準、預かり保育の取り扱い、新制度に移行しない幼稚園に対する私学助成の充実等を強く主張してきた。都道府県や市町村においても国の動きと並行して子ども・子育て会議が開催されており、こうした中で、本連合会はそれぞれの私立幼稚園が自らの進むべき道を選択できるよう、都道府県団体の代表の方々を対象として地方版子ども・子育て会議対応研修会を4回開催した。

さらに、都道府県団体が開催する研修会に講師を派遣するなど積極的な支援に努めた。

政府予算については、正副会長、政策委員会が一丸となって取り組んだ結果、私立高等学校等経常費助成費補助（幼稚園分）が4億円余増（＋1.3%）、幼稚園就園奨励費補助については全国各地からの約450万人の署名運動を力に、103億円余増（＋44%）という大きな成果を挙げることができた。

幼稚園就園奨励費補助は、①生活保護世帯の保護者負担を無償、②小学校3年生以下の6年間で第2子、第3子と数えることにより就園奨励費給付対象

者数も大幅に増加、③所得制限を撤廃し、第2子の保護者負担を半額にし、第3子以降についても所得制限を撤廃し保護者負担を無償とした。

以上のように、今回の大型拡張就園奨励費予算は「幼児教育の無償化」に向けて大きな第一歩となった。

【具体的活動内容】

1. 私立幼稚園の振興に関する事項／（1）関係国会議員へ要望（2）文部科学大臣へ要望（3）文部科学省と協議・要望（4）総務大臣へ要望
2. 私立幼稚園の政策推進に関する事項／（1）子ども・子育て支援新制度（2）幼児教育の無償化への対応（3）情報提供①教育振興基本計画②社会保障審議会③認定こども園④次世代育成支援対策⑤子ども・子育てビジョン
3. 関係団体、組織に関する事項／（1）全私学連合（2）第28回PTA全国大会〔7月2日、記念講演／森喜朗元内閣総理大臣、全日本私立幼稚園PTA連合会顧問〕
4. 事業ならびに活動に関する事項／（1）【地方版】子ども・子育て会議対応研修会〔6月26日、東京都千代田区、出席240人〕第6回都道府県政策担当者会議／第2回【地方版】子ども・子育て会議対応研修会〔9月26日、東京都文京区、出席220人〕子ども・子育て新制度対応のための合同会議〔11月12日、東京都千代田区、出席60人〕第3回【地方版】子ども・子育て会議対応研修会〔平成26年2月17日、東京都文京区、出席110人〕（2）第29回設置者・園長全国研修大会〔10月21日・22日、北海道旭川市〕研究講座

= 教育研究委員会 =

委員長＝安達謙、副委員長＝四ツ金雅彦、宮下友美恵、黒田秀樹、委員＝岡本潤子、櫛淵洋介、高倉幸世、加藤篤彦、磯野おわ、濱名浩、中邑隆哉、乾盛夫、吉井健、協力委員＝亀ヶ谷忠宏、委員会＝7回開催

【具体的活動内容】

教育研究委員会の事業は、（公財）全日本私立幼

稚園幼児教育研究機構・研究研修委員会において実施しているため、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の平成25年度事業報告書に記載。

= 経営研究委員会 =

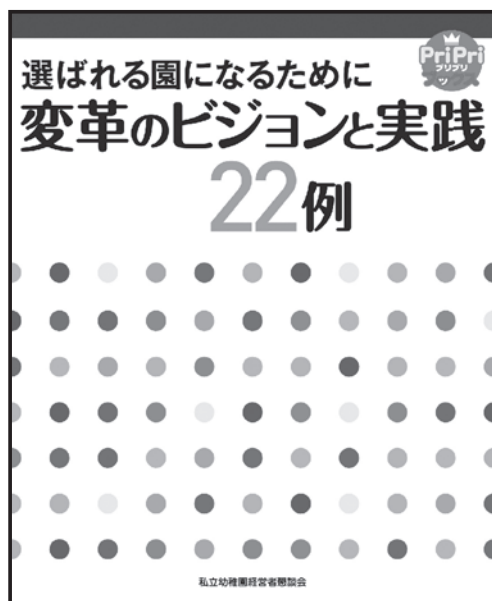
委員長＝川島教孝、副委員長＝岡部圭二、石井幸男、委員＝安斉悦子、角谷正雄、深澤壽、堀江眞嗣、徳本達之、森一男、藤田喜一郎、高尾恵子、委員会＝4回開催

【具体的活動内容】

1. 第29回設置者・園長全国研修大会の企画および実施／平成25年10月21日(月)・22日(火)の2日間、公益社団法人北海道私立幼稚園協会の協力のもと、旭川市・旭川グランドホテルを会場にて開催。全国各地から585人の設置者・園長が参加。大会初日は開会式に引き続き、坂東元(旭川市旭山動物園園長・獣医師、ボルネオ保全トラストジャパン理事)から『伝えるのは命の輝き』と題して記念講演がなされ、続いて「行政報告」講師：蝦名喜之(文部科学省初等中等教育局幼児教育課長)より行政報告を行なった。翌日22日は、「研究講座1(教育)」パネルディスカッションパネリスト：岡健(大妻女子大学家政学部児童学科教授)、安家周一((公財)全日私幼研究機構副理事長)、黒田秀樹((公財)全日私幼研究機構研究研修副委員長)、コーディネ

ーター：安達譲((公財)全日私幼研究機構研究研修委員長)。「研究講座2(振興)」パネルディスカッションパネリスト：蝦名喜之(文部科学省初等中等教育局幼児教育課長)、北條泰雅(全日私幼連副会長)、濱川喜亘(全日私幼連政策委員)、寺尾好洋(全日私幼連政策委員)、コーディネーター：坪井久也(全日私幼連政策委員長)。「研究講座3(経営)」パネルディスカッションパネリスト：田中雅道((公財)全日私幼研究機構理事長)、川島教孝(全日私幼連経営研究委員長)、岡部圭二(全日私幼連経営研究副委員長)、石井幸男(全日私幼連経営研究副委員長)、コーディネーター：尾上正史(全日私幼連副会長)。「研究講座4(認定こども園)」パネルディスカッションパネリスト：村山十五(全日私幼連副会長)、内野光裕(全日私幼連認定こども園対策副委員長)、木村義恭(全日私幼連認定こども園対策委員)、角谷正雄(全日私幼連経営研究委員)、コーディネーター：磯哲也(全日私幼連認定こども園対策委員長)らにより4講座を実施した。

2. 平成25年度(第25回)私立幼稚園経営実態調査の実施と報告／全日私幼連加盟園の7,672園に実施調査票を配布し、4,340園(回収率56.6%)から回答を得た。調査結果をもとに、保育料等の分析を行い、報告を全日私幼連ホームページならびに要覧2014にて行う予定。なお本年度は、特別支援児数、預かり保育、スクールバス利用状況、借入



こども園への移行? 0・1・2歳児保育を導入? 保育の質の向上は?

選ばれる園になるために

～変革のビジョンと実践22例～

保育施設の未来がこの本に!

保育施設の“機能と質”を考える。
22園の変革ビジョンとプロセスを一挙公開。

私立幼稚園経営者懇談会・著
248ページ/税込4,320円
世界文化社刊/4061301

株式会社 世界文化社 ワンダー営業本部
TEL: 03-3262-5128 FAX: 03-3262-6121

金等に関する調査も実施した。

3. 幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化への対応／設置者・園長全国研修大会の研究講座にて、5歳児の無償化を視野に平成26年度から段階的に取り組むとする、政府の基本方針を踏まえ議論した。

4. 子ども・子育て支援新制度への対応／設置者・園長全国研修大会の研究講座にて、公費負担・保護者負担がどのように構成されていくか、また私立幼稚園の運営がどのようになっていくか具体的な姿はまだ示されていない中で、経営実態調査の数値や子ども・子育て支援新制度における試算メモ（案）をもとに今後の私立幼稚園の在り方について議論した。また、政策委員会・認定こども園対策委員会と合同で公定価格の適正価格について議論し取りまとめた。

5. 私立幼稚園の学校法人の存続にかかる諸問題の検討／私立幼稚園の設置者・園長・後継者を主として、幼稚園運営の疑問・質問・悩み等を解決するために『経営相談室』を設置した。相談に対して委員が状況に応じ適宜回答した。なお質問は、Eメールで問い合わせ（連絡先等が明確に示された場合）があった場合のみ回答した。

6. 後継者育成研修会の開催／平成26年2月21日（金）東京・私学会館にて、若手を育成し次世代の後継者を養成することを目的とした、『次世代・後継者研修会』を開催し全国から153名が参加。開会の後に、講演Ⅰを香川敬・全日私幼連会長より『これからの私立幼稚園に必要な後継者とは』と題して講演。続いて、各地域の5名の先生方に登壇していただき、自身の体験談や・現在抱えている悩み等を意見発表してもらい、参加者と一緒にその問題について話し合い、アドバイスを募り活発な意見交換を行った。その後、講演Ⅱを相原康人・文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官より『子ども・子育て支援新制度について』と題し講演を行なった。

7. 経常費補助金配分基準の調査と検証／都道府県によって経常費補助金の配分基準の違いが見られるため、配分方法について調査を行い検証し、結果を全日私幼連HPへ掲載した。都道府県によって異なる子育て推進への斬新・特色ある項目を伝えると

もに、詳細な配分方法、基準を明示している地域を紹介することで今後、各地域で振興活動を行う際に役立てる内容とした。

= 広 報 委 員 会 =

委員長＝西谷正文、副委員長＝田澤茂、波岡伸郎、委員＝須田正明、飯塚拓也、川名マミ、編集委員＝梅澤眞理、前田幹、奈良誉夫、光安則子、委員会＝6回開催

【具体的活動内容】

1. 情報特急便（No. 22～No. 45）／子ども・子育て支援新制度に関する情報や、平成26年度の政府予算案、更には幼児教育の無償化の動きなど、加盟園や団体事務局に最新の情報をいち早く届けることを心掛けた。
2. ホームページ／全日私幼連ホームページ「情報のひろば」に情報特急便等を掲載した。また、子ども子育て支援新制度関連の資料を適宜掲載するなど迅速な情報提供に努めた。さらに、幼児教育の無償化実現のための署名活動についてのページにおいて、署名活動への協力を喚起した。
3. こどもがまんなかPROJECT推進のための調査広報活動／PTAしんぶんにおいて、こどもがまんなかプロジェクトを意識した誌面づくりを行った。また、私幼時報において、こどもがまんなかプロジェクトの取り組み等について適宜報告した。

= 1 0 2 条園対策委員会 =

委員長＝伊藤夏夫、副委員長＝田中圭子、委員＝玉城正雄、専門委員＝小山嘉治、滑川良一、溝渕真澄、宇野延明、矢木一美、井上舒之、委員会＝4回開催

102条園対策委員会の年間事業計画にもとづき、現状の諸問題解決のため委員会等で検討協議を重ねた。また、研修会等を通して情報交換を行い、年間委員会活動のあり方を模索した。

【具体的活動内容】

1. 平成25年度・都道府県102条園研究会議

の企画・実施／都道府県団体の102条園代表者103人が集まり、9月18日（水）東京・私学会館で開催した。「102条園からみた子ども・子育て支援新制度について」と題して、蝦名喜之・文部科学省初等中等教育局幼児教育課長が講演。続いて、「102条園における今後の在り方について」と題して、情報交換を行い、今後の102条園として幼保一体化における諸課題について情報交換を行った。次に、「幼保一体化に伴う102条園の今後の在り方について」と題して、尾上正史・全日私幼連副会長から講演をいただいた。

2. 地区会、各都道府県団体との情報交換と補助のあり方について／12月13日（金）京都・京都市子育て支援総合センターにて、3団体（兵庫・京都・大阪）と合同で研修会を開催し、25名の先生方が参加した。会の中では、102条園対策委員会の活動報告の説明。その後、政府が進める子ども・子育て支援新制度についての現状と、102条園の今後のあり方について講演を行い、情報交換を行った。

3. 平成25年度・102条園研修会の企画・実施／私立幼稚園を取り巻く状況の変化に対応するため、平成26年2月7日（金）東京・私学会館で開催し、都道府県団体から152人の先生方が参加され、「子ども・子育て支援新制度について」と題して、蝦名喜之・文部科学省初等中等教育局幼児教育課長が講演し、その後、座談会形式にて、相原康

人・文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官を交えて政府が進める、子ども・子育て支援新制度について意見交換を行った。

4. 平成25年分・青色申告決算の手引書等の作成／平成25年分も昨年と同様に、「青色申告の決算の手引き」の紙媒体での配布を止め、全日私幼連のホームページに掲載し、青色申告決算の手引書等をダウンロードして活用してもらうようにした。

＝認定こども園対策委員会＝

委員長＝磯哲也、副委員長＝内野光裕、委員＝木村義恭、渡邊文雄、小倉庸寛、山崎三千子、古閑榮実、専門委員＝正本秀崇、委員会＝3回開催

平成25年度は、①認定こども園の現状報告、意見交換の実施、②幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化に関する意見交換、③子ども・子育て支援新制度に関する意見交換、④第29回設置者・園長全国研修大会（旭川市）研究講座の企画・実施、⑤各県の認定こども園の実態を視察調査、⑥新制度になった時の認定こども園のメリット・デメリットのまとめを行った。

【具体的活動内容】

1. 認定こども園の現状の意見交換／各地における認定こども園の現状報告や今後の展望についての意見交換を行った。東京海上日動火災保険株式会社よ

ひろみちお兄さんの からだあそび

佐藤弘道 著

からだがつくれる幼児期には、全身の運動能力をバランスよく身につけることが大事。

筋力・瞬発力・柔軟性・平衡性など、身につけた運動能力ごとにあそびを紹介していきます。

補助のしかたや安全のポイントなど、役立つアドバイスもいっぱい、からだあそびの決定版！

じわじわ
どっか〜ん！
体力アップ

楽しく
バランス！
調整力アップ

親子体操

定価 1,944円（税込）
26×21cm／96ページ
発行・発売 チャイルド本社

好評発売中！



り、認定こども園における保険制度についてヒアリングを受けた。

2. 幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化に関する意見交換／正副会長、政策委員会正副委員長、経営研究委員会正副委員長との合同会議に参加し、意見を交換した。

3. 子ども・子育て支援新制度に関する意見交換／正副会長、政策委員会正副委員長、経営研究委員会正副委員長との合同会議に参加し、意見を交換した。また、Q & Aを作成し、政策委員長へ提案した。

4. 第29回設置者・園長全国研修大会（旭川市）における研究講座の企画・実施／「新制度における認定こども園・幼保連携型について」と題して、認定こども園の今後について研究講座を企画し、実施した。

5. 各県の認定こども園の実態を視察調査／北海道、九州地方、東北地方を中心に各県の認定こども園を視察し、情報を集めた。

6. 新制度になった時の認定こども園のメリット・デメリットのまとめ／正副会長、政策委員会、経営研究委員会の協力を得て、会員園の方向性の資料とするため、新制度下の施設型給付の幼稚園と認定こども園のメリット・デメリットをまとめ、委員会として発表した。

＝こどもがまんなかPROJECT企画推進会議＝

委員長＝尾上正史、委員＝香川敬、北條泰雅、村山十五、小林弘明、田中雅道、安家周一、石嶋昇、坂本洋、田中辰実、坪井久也、安達譲、川畠教孝、西谷正文、会合＝10回開催

平成25年度、「こどもの権利」「国際貢献」「母親とこどもの健康」「日本文化・地域文化の継承」「こどもがまんなか生活」「共生」の6つの柱を掲げ、現代の子どもたちをめぐる社会環境を考慮しつつ、今後の国の子育て支援策などを踏まえ活動を展開した。

1. プロジェクト企画推進事業／（1）こどもの権利：こどもがまんなか指標を作成し、冊子「知っていますか？生活の中の子ども権利」を作成・販売した。

（2）国際貢献：募金箱を全国の園に送付／「世界の子どもとお母さんの命を守る」ための国際的支援活動と東日本大震災支援活動を目的に、全国の園に募金箱を送付した。発展途上の地域において、出産時に20人に1人の母親が命を落としている現状等から「世界の子どもとお母さんの命を守る」ために、発展途上国の医療者の教育援助のために寄附を行った。（3）母親とこどもの健康／子どもと家族の健康と美を応援するセミナーを実施した。（4）日本文化・地域文化の検証／7月28日、兵庫県神戸市・デザイン・クリエイティブセンター神戸で「こどもがまんなかPROJECTin神戸」を開催し、約1500人の参加者を得て日本文化・地域文化の検証を行った。（5）共生／東日本大震災・幼稚園記録ビデオ『原発事故、福島の子どもは環境喪失の中で保育の原点に立ち返る』の制作に協力した。11月29日、福島県・めばえ幼稚園／福島県文化センターで「原田英代／震災復興ピアノ・コンサート」を開催し、約400人の参加を得た。

2. プロジェクト普及啓発事業／（1）プロジェクトの普及啓発活動：2月16日、宮城県仙台市イズミティ21（仙台市泉文化創造センター）大ホールで「こどもがまんなか杉山兄弟シャボン玉ショー」を開催し、約3000人の参加を得た。（2）協賛・後援団体：「こどもがまんなかPROJECT」サポーター企業懇親会を開催／国や自治体、教育機関と一緒に企業が「こどもがまんなか」を進めるために活動の担い手になろうとする企業が集まった。全日本私立幼稚園PTA連合会の第28回PTA全国大会で「こどもがまんなかPROJECT」の活動を紹介した。

◎地区教研大会日程

北海道地区	7月31日・8月1日	北海道・札幌市
東北地区	10月17・18日	秋田県・秋田市
関東地区・神奈川地区	8月18・19日	栃木県・宇都宮市
東京地区	7月23・24日	東京都・千代田区
東海北陸地区	8月7・8日	石川県・金沢市
近畿地区・大阪地区	7月24・25日	滋賀県・大津市
中国地区	8月21・22日	岡山県・岡山市
四国地区	8月4・5日	香川県・高松市
九州地区	8月5・6日	宮崎県・宮崎市

一般会計収支計算書
平成25年4月1日～平成26年3月31日

(単位：円)

科 目	予算額A	決算額B	(A－B)	備 考
①事業活動収入の部				
1 基本財産運用収入	◀ 50,000 ▶	◀ 29,754 ▶	◀ 20,246 ▶	
基本財産運用収入	50,000	29,754	20,246	基本積立金・大河内・由田利息
2 特定資産運用収入	◀ 150,000 ▶	◀ 136,847 ▶	◀ 13,153 ▶	
特定資産運用収入	150,000	136,847	13,153	国際交流・財政運用・退職給付利息・災害積立利息
3 受取会費収入	◀ 303,601,060 ▶	◀ 303,559,390 ▶	◀ 41,670 ▶	
一般会費	178,101,060	178,047,690	53,370	(会費1園12,000円＋園児70円×平均園児数)加盟園数
臨時会費	125,500,000	125,511,700	△ 11,700	園児数×100円
4 事業収入	◀ 16,660,000 ▶	◀ 16,563,446 ▶	◀ 96,554 ▶	
設置者・園長研修会	10,060,000	10,060,000	0	研修会参加費等
保険事務手数料	6,600,000	6,503,446	96,554	JK保険
5 受取補助金等収入	◀ 18,600,000 ▶	◀ 17,033,000 ▶	◀ 1,567,000 ▶	
団体研究助成金	18,600,000	17,033,000	1,567,000	研修福祉会より
6 受取寄付金収入	◀ 6,300,000 ▶	◀ 6,300,000 ▶	◀ 0 ▶	
寄付金収入	6,300,000	6,300,000	0	JK保険広告料等
7 雑収入	◀ 1,030,000 ▶	◀ 1,132,477 ▶	◀ △ 102,477 ▶	
受取利息	30,000	42,677	△ 12,677	
その他	1,000,000	1,089,800	△ 89,800	推薦料・政策担当者会議参加費等
8 他会計からの繰入収入	◀ 5,000,000 ▶	◀ 5,000,000 ▶	◀ 0 ▶	特別会計より繰入収入
9 財政運用積立預金取崩収入	◀ 0 ▶	◀ 0 ▶	◀ 0 ▶	
10 退職給付引当預金取崩収入	◀ 8,543,665 ▶	◀ 8,543,665 ▶	◀ 0 ▶	
11 災害積立預金取崩収入	◀ 3,000,000 ▶	◀ 50,000 ▶	◀ 2,950,000 ▶	
事業活動収入計	362,934,725	358,348,579	4,586,146	
②事業活動支出の部				
事業費支出	◀ 287,970,000 ▶	◀ 282,575,996 ▶	◀ 5,394,004 ▶	
①総務関係事業	(76,300,000)	(72,616,646)	(3,683,354)	
総会	6,600,000	6,535,106	64,894	会議費・旅費
理事会	9,000,000	9,378,001	△ 378,001	会議費・旅費
常任理事会	7,000,000	3,412,763	3,587,237	会議費・旅費
団体会長会	2,300,000	2,214,109	85,891	会議費・旅費
監事会	350,000	314,140	35,860	会議費・旅費
総務委員会	2,300,000	2,295,368	4,632	会議費・旅費
諸会議費	9,500,000	9,412,631	87,369	会議費・旅費
全私連	1,000,000	1,000,000	0	分担金・全私学連合
国際交流事業	100,000	100,000	0	分担金・会議費
全審連	250,000	230,000	20,000	分担金・全国私立学校審議会連合会
表彰事業	2,500,000	2,492,234	7,766	勤続表彰
出張費	2,500,000	2,306,782	193,218	旅費等
渉外費	1,300,000	1,428,145	△ 128,145	慶弔費
要覧事業	1,500,000	1,499,767	233	作成費
地区活動事業	15,900,000	15,836,000	64,000	
奨励事業	6,400,000	6,392,400	7,600	
組織強化費	7,800,000	7,769,200	30,800	各都道府県に対する奨励金
②政策関係事業	(167,700,000)	(171,843,300)	(△ 4,143,300)	
政策委員会	2,300,000	2,239,525	60,475	会議費・旅費
都道府県政策担当者会議	3,400,000	3,390,145	9,855	
予算対策費	40,000,000	39,423,274	576,726	会議費・旅費等
政策推進費	22,000,000	21,955,143	44,857	会議費・旅費等
無償化・3法	100,000,000	104,835,213	△ 4,835,213	
③教育研究関係事業	(20,000)	(11,137)	(8,863)	
教育研究委員会	20,000	11,137	8,863	
④経営研究関係事業	(14,500,000)	(14,201,692)	(298,308)	
経営研究委員会	2,300,000	2,016,530	283,470	会議費・旅費
設置者・園長研修会	10,700,000	10,693,691	6,309	
経営実態調査	1,500,000	1,491,471	8,529	調査費
⑤広報関係事業	(3,800,000)	(3,610,050)	(189,950)	
広報委員会	100,000	0	100,000	
会報等発行事業	3,000,000	3,000,000	0	
インターネット事業	700,000	610,050	89,950	H P 管理・運営
⑥102系園関係事業	(2,300,000)	(1,728,696)	(571,304)	
102系園対策委員会	1,300,000	1,189,187	110,813	会議費・旅費
都道府県代表者会議	1,000,000	539,509	460,491	会議費・旅費
⑦認定こども園関係事業	(1,300,000)	(1,031,475)	(268,525)	
認定こども園対策委員会	1,300,000	1,031,475	268,525	会議費・旅費
⑧団体教育研究関係事業	(19,050,000)	(17,483,000)	(1,567,000)	
地区別教育研究会	18,600,000	17,033,000	1,567,000	助成金・(公財)全日私幼研究機構
全日私幼連負担分	450,000	450,000	0	記念品代
⑨災害費関係事業	(3,000,000)	(50,000)	(2,950,000)	
災害費	3,000,000	50,000	2,950,000	
2 管理費支出	◀ 60,300,000 ▶	◀ 58,581,091 ▶	◀ 1,718,909 ▶	
給料	23,500,000	22,824,617	675,383	
退職金	18,300,000	18,268,563	31,437	
福利厚生費	4,200,000	4,057,971	142,029	
事務所費	2,000,000	1,991,557	8,443	共益費・水道光熱費等
印刷費	400,000	332,937	67,063	各種印刷費
消耗品費	2,000,000	2,056,024	△ 56,024	
賃借料	2,000,000	2,007,633	△ 7,633	印刷機等リース代
通信費	2,000,000	1,780,298	219,702	各種通信費・発送費
交通費	500,000	186,790	313,210	都内交通費
租税公課費	2,050,000	2,021,400	28,600	法人税・消費税等
支払手数料	300,000	247,061	52,939	振込手数料
備品費	450,000	441,000	9,000	エアコン
顧問料	2,500,000	2,292,410	207,590	弁護士・会計士・社労士
雑費	100,000	72,830	27,170	
3 他会計への繰出支出	◀ 0 ▶	◀ 0 ▶	◀ 0 ▶	
他会計(こどもP J)へ繰出支出	0	0	0	
4 特定預金繰入支出	◀ 10,500,000 ▶	◀ 10,444,240 ▶	◀ 55,760 ▶	
財政運用積立預金繰入支出	10,000,000	10,000,000	0	
退職給付引当預金繰入支出	500,000	444,240	55,760	
災害積立預金繰入支出	0	0	0	
5 予備費支出	◀ 4,164,725 ▶	◀ 0 ▶	◀ 4,164,725 ▶	
事業活動支出計	362,934,725	351,601,327	11,333,398	
当期収支差額	0	6,747,252	△ 6,747,252	
前期繰越収支差額	36,451,782	36,451,782	0	
次期繰越収支差額	36,451,782	43,199,034	△ 6,747,252	

※予算額は第一次補正予算額

★ 5・8 第3回理事会

平成 25 年度事業報告・収支決算を議決

5月8日、(公財)全日私幼研究機構理事会が、東京・私学会館で開催され、理事20名が出席しました。

田中雅道理事長が議長となり、定款第34条の規定に基づき、議事録署名人に加藤篤彦理事、澤田豊理事を選任し議事に入りました。

1. 平成 25 年度事業報告の承認の件

議長、安家副理事長、安達研究研修委員長、西谷調査広報委員長より、平成 25 年度事業報告について説明があり、定款第 8 条第 1 項、第 2 項の規定に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって議決されました。

2. 平成 25 年度収支決算の承認の件

議長、坂本専務理事より、平成 25 年度収支決算の説明があり、定款第 8 条第 3 項、第 4 項、第 5 項、第 6 項の規定に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって議決されました。

3. 定時評議員会開催(5月28日)の件

議長より、評議員会開催の説明があり、定款第 17 条第 1 項の規定に基づき一同に諮ったところ、原案通り満場一致をもって議決されました。

- ・日時・場所：平成 26 年 5 月 28 日(水)午後 2 時～午後 4 時・私学会館
- ・議題：決議案件①平成 25 年度収支決算の承認の件②理事・監事の選任の件
- ・報告案件①平成 25 年度事業報告の件②賛助会員入会の件③WEBサイトリニューアルの件④賛助会員(旧PTAしんぶん友の会)の件

4. 賛助会員入会の件

議長より、株式会社みつばコミュニティの賛助

会員新規入会申し込みの説明があり、会員に関する規定第 4 条第 2 項の規定に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって入会が議決されました。

【報告案件】

1. 理事長からの執行報告について

理事長より、自己評価及び学校関係者評価についてさらなる充実、質の向上を図っていきたい旨の報告がありました。次に、今後の課題として第三者評価については、本財団として公開保育を中心に質の向上につながる制度を作っていきたい旨の報告がありました。また、PTAしんぶん 4 月号を全園児配布した旨の説明があり、今後、賛助会員である保護者から更なる賛同を得ることが出来れば、3月号も全園児へ配ることができるよう、努力していききたい旨の執行報告がなされました。

2. 公開保育コーディネーターについて

安達研究研修委員長より、公開保育について説明報告がなされました。

3. WEBサイトリニューアルの件

西谷調査広報委員長より、WEBサイトのリニューアルについて説明報告がなされました。

4. 賛助会員(旧PTAしんぶん友の会)について

西谷調査広報委員長より、賛助会員についての説明報告がなされました。

((公財)全日私幼研究機構専務理事・坂本洋)

★ 5・28 定時評議員会

5月28日、(公財)全日私幼研究機構評議員会が、東京・私学会館で開催され、理事18名が出席しました。

定款第18条の規定に基づき、議長に北條泰雅評議員を選任し、議事録署名人に岡部圭二評議員、中邑隆哉評議員を選任し議事に入りました。

【決議案件】

1. 平成25年度収支決算の承認の件

田中理事長及び坂本専務理事より、平成25年度収支決算について資料をもとに説明があり、定款第8条第1項第3号から第6号までの規定に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって決議されました。

2. 理事・監事の選任の件

理事長より、理事・監事の選任について資料をもとに説明があり、審議の結果、定款第22条第1項の規定に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって決議されました。

【報告案件】

1. 平成25年度事業報告の件

田中理事長及び石嶋副理事長より、平成25年度事業報告について資料をもとに説明がありました。



2. 賛助会員入会の件

田中理事長より、5月8日(木)に開催された第3回理事会において新たな賛助会員として決議された旨の報告がなされました。

3. WEBサイト リニューアルの件

石嶋副理事長より、さらに見やすいホームページを作るために小委員会を設けて活動をしている旨、また、年度末の公開(発表)に向けて作業を進めていく旨の報告がなされました。

4. 賛助会員(旧PTAしんぶん友の会)の件

田中理事長より、賛助会員についての現状の申込み数等の報告があり、引き続き、申込み数を増やしていく努力を行っていきたい旨の説明報告がなされました。

((公財)全日私幼研究機構専務理事・坂本洋)

L66600

保育の心もち
秋田 喜代美

保育の心もち
保育に携わる姿勢・「心もち」をさまざまな視点からわかりやすく解説。すべての保育者のための日めくりカレンダーのような優しい本です。

L66900

保育のおもむき
秋田 喜代美

保育のおもむき
何気ない保育の場面や子どものようすから、筆者が心動かされたことや、環境を通して行なう教育としての日本の保育の良さ、それぞれの園がかもし出す「おもむき」を味わえる。保育に携わるすべての人の心に響くコラム集です。

L65800

保育のみらい
秋田 喜代美

保育のみらい
保育制度改革の真の意味を問う書き下ろしを含む、いつもの保育にプラスになる珠玉のアンソロジー! 保育の大切さが伝わる、読みやすくまとめられた日本教育新聞他の連載を中心に単行本化したものです。

秋田喜代美先生の3部作

各巻B6上製判 定価:本体 1,200円(税別)

ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表

支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

田中雅道氏が理事長に就任 副理事長に安家周一氏、原徳明氏



5月28日、(公財)全日私幼研究機構理事会が、東京・私学会館で開催され、理事13名が出席しました。田中雅道理事長が議長となり、定款第34条の規定に基づき、議事録署名人に近藤宏理事、内山昭理事を選任し議事に入りました。

【決議案件】

1. 理事長、副理事長及び専務理事の選任の件

議長より定時評議員会(5月28日開催)の役員
の選任について以下の説明がありました。

- ・理事は20人のうち15人が再任、5人退任。
新たに5人が選任された。
- ・監事は2人のうち1人が再任、1人退任。
新たに1人が選任された。
- ・選任された役員について、氏名・経歴・選任
理由等が1人ずつ示された。

理事より理事長、副理事長及び専務理事の候補
者について提案があり、審議の結果、定款第22
条第2項の規定に基づき一同に諮ったところ、
満場一致をもって可決・確定されました。

((公財)全日私幼研究機構専務理事・坂本洋)

公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

役員名簿

理事

- ◎ 田中 雅道 京都・学校法人光明学園光明幼稚園長
- 安家 周一 大阪・学校法人あけぼの学園理事長
- 原 徳明 群馬・学校法人満勝寺学園理事長
- * 坂本 洋 岩手・学校法人内丸学園理事長
- 秋田喜代美 東京大学教育学研究科教授
- 岩立 京子 東京学芸大学教育学部総合教育学系教授
- 内山 昭 和歌山・学校法人内山学園理事長
- 大澤 力 東京家政大学児童学科教授
- 岡 健 大妻女子大学家政学部児童学科教授
- 奥田 一晶 愛媛・学校法人愛媛幼稚園理事長
- 香川 敬 山口・学校法人敬陽学園理事長
- 加藤 篤彦 東京・学校法人武蔵野東学園理事
- 亀ヶ谷忠宏 神奈川・学校法人亀ヶ谷学園宮前幼稚園長
- 黒田 秀樹 福岡・学校法人黒田学園理事長
- 近藤 宏 北海道・学校法人菅原学園理事長
- 杉山 一夫 岐阜・学校法人杉山第三学園理事長
- 春原 誠 弁護士
- 園尾 憲一 鹿児島・学校法人広福学園理事長
- 鳥居 泰彦 前日本私立学校振興・共済事業団理事長
- 箕輪 潤子 川村学園女子大学教育学部幼児教育学科准教授

監事

- 山口 善久 公認会計士・税理士
- 町山 芳夫 東京・学校法人町山学園理事長

(平成26年5月28日現在)

※ ◎理事長、○副理事長、*専務理事

(公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 平成 25 年度事業報告

◇平成 25 年度会合等の概要

(1) 理事会／5月7日第1回理事会(20人出席)〔東京・私学会館〕平成26年2月28日第2回理事会(20人出席)〔東京・私学会館〕(2) 評議員会／5月28日第1回評議員会(18人出席)〔東京・私学会館〕平成26年3月28日第2回評議員会(18人出席)〔東京・私学会館〕、(3) 監査会／4月19日監査会(5人出席)〔東京・私学会館〕10月30日監査会(5人出席)〔東京・私学会館〕

◇委員会活動等一覧

4月3日調査広報委員会〔東京・全日私幼連事務局〕、4月23日研究研修委員会〔東京・私学会館〕、5月12日縦断研究打合会〔福岡・福岡ガーデンパレス〕、5月13日実践学会、研究担当者会議等小委員会〔福岡・福岡ガーデンパレス〕、5月14日ホームページに関する小委員会〔東京・全日私幼連事務局〕、6月4日調査広報委員会〔東京・全日私幼連事務局〕、6月6日縦断研究打合会〔東京・全日私幼連事務局〕、6月14日研究研修委員会〔東京・私学会館〕、6月27日・28日公開保育コーディネーター養成講座〔東京・日本大学本部、武蔵野東第一・第二幼稚園〕、7月3日正副理事長会〔東京・全日私幼連事務局〕、7月20日正副理事長・正副委員長会〔東京・全日私幼連事務局〕、7月27日公開保育コーディネーター養成講座打合会〔東京・武蔵野東第二幼稚園〕、7月30日調査広報委員会〔東京・全日私幼連事務局〕、8月22日研究研修委員会〔福岡・福岡ガーデンパレス〕、8月23日・24日第4回幼児教育実践学会／公開保育コーディネーター養成講座〔福岡・都久志会館、ホテル福岡ガーデンパレス、天神クリスタルビル〕、8月30日正副理事長会〔東京・全日私幼連事務局〕、9月4日正副理事長・正副委員長会〔大阪・大阪ガーデンパレス〕、9月24日正副理事長・正副委員長会〔東京・私学会館〕、9月24日研究研修委員会〔東京・私学会館〕、9月25日調査広報委員会〔東京・私学会館〕、

11月7日学校評価の推進、文科省委託事業等小委員会〔東京・全日私幼連事務局〕、11月5日ホームページに関する小委員会〔東京・全日私幼連事務局〕、11月22日研究研修委員会〔東京・私学会館〕、11月25日調査広報委員会〔東京・全日私幼連事務局〕、12月5日学校評価の推進、文科省委託事業等小委員会〔東京・私学会館〕、平成26年1月17日学校評価の推進、文科省委託事業等小委員会〔大阪・大阪ガーデンパレス〕、1月22日実践学会、研究担当者会議等小委員会〔京都・京都ガーデンパレス〕、1月23日研究研修委員会〔京都・京都ガーデンパレス〕、1月23日・24日全国研究研修担当者会議／公開保育コーディネーター養成講座〔京都・京都ガーデンパレス〕、1月29日震災記録映像打合会〔東京・全日私幼連事務局〕、2月4日拡大正副理事長会〔東京・全日私幼連事務局〕、2月12日調査広報委員会〔東京・全日私幼連事務局〕、2月13日研究研修委員会〔東京・私学会館〕、2月27日学校評価の推進、文科省委託事業等小委員会〔東京・全日私幼連事務局〕、2月28日震災記録映像打合会〔東京・私学会館〕、3月5日ホームページに関する小委員会〔東京・私学会館〕、3月6日震災記録打合会〔東京・協映〕、3月10日縦断研究・砂場研究打合会〔神奈川・宮前幼稚園〕、3月29日幼児教育国際シンポジウム〔東京・東京大学〕、3月30日縦断研究・砂場研究打合会〔東京・全日私幼連事務局〕

◇平成 26・27 年度「教育研究課題」の検討・作成

平成 26・27 年度の教育研究主題を策定するにあたっては、平成 24・25 年度の課題の主旨を継続し、発展させ内容について検討が行われた。主題を「子どもの『今』に寄り添い、子どもと『未来』をきずく～保育臨床の視点を大切に、保育の質を高めよう～」とし、2つの重点課題、7つの課題、3つの特別分野を設定。10月に各都道府県私幼団体

に配付し、同時にホームページに掲載した。

◇幼稚園における学校評価の完全実施に向けた事業の企画・検討

文部科学省委託事業「平成 25 年度幼児教育の改善・充実の調査研究」について企画・検討を行い、公開保育を実施し、評価者や参加者の外部の視点を導入することによって自園の良さや課題を見つけていくこと等により第三者評価としての役割を果たすことを目指す「(仮称) 公開保育コーディネーター養成講座」を企画実施した。

平成 25 年 6 月 27 日、28 日、8 月 24 日、平成 26 年 1 月 23 日、24 日に(仮称) 公開保育コーディネーター養成講座を開催。受講者は全国から約 60 名。平成 25 年 6 月 27 日は東京・千代田区の日本大学本部大講堂においてオリエンテーション、岡健大妻女子大学教授による事前講義が行われた。2 日目の 28 日には東京・武蔵野市の武蔵野東第一・第二幼稚園において公開保育を実施。8 月 24 日は福岡・福岡市の天神クリスタルビルにおいて、岡健大妻女子大学教授を講師にファシリテーションワークショップを実施。平成 26 年 1 月 23 日、24 日の 2 日間京都府・京都市の京都ガーデンパレスにおいて養成講座を行った。

◇免許状更新講習等についての企画・検討

- ・免許状更新講習の実施
- ・文部科学大臣の認定を受け、平成 25 年度は、全国で 93 講習を開催し 7,438 人が受講した。
- ・本財団独自事業として、7 月 20 日、21 日と 12 月 21 日、22 日の 2 回、免許状更新講習必修講習を開催した。
- ・免許状更新講習必修カリキュラムの作成及びプログラム化について検討協議を行い、幼稚園教諭を対象とした免許状更新講習必修講習のカリキュラムを作成した。

◇「幼児教育実践学会」の実施

8 月 23 日(金)・24 日(土)、福岡県福岡市・都久志会館、福岡ガーデンパレス、天神クリスタル

ビルを会場に「第 4 回幼児教育実践学会」を開催。全国から約 600 人の参加を得た。初日の記念講演は、福岡県保育実践フォーラム(福岡県私立幼稚園振興協会主催)との合同開催として行われ、川崎医療福祉大学医療福祉学部特任教授の佐々木正美先生による「人間関係に喜びを感じる子ども」と題した講演が行われた。

開会式では、本財団「平成 24 年度優秀教員表彰」の表彰式が行われた。基調講演では、「保育の質と縦断研究」と題し、(公財) 全日私幼研究機構の田中雅道理事長による講演が行われた。また、学会企画シンポジウムでは「若い保育者を育てる保育評価の在り方～写真をもとにおこなう P E M Q の評価方法を視点にして～」をテーマに、指定討論者に秋田喜代美東京大学大学院教授、コーディネーターに門田理世西南学院大学教授をお招きしてシンポジウムが行われた。

2 日目は、口頭発表 14 発表(北海道地区 1、東北地区 1(青森県)、関東地区 1(群馬県)東京地区 1、神奈川県 1、東海・北陸地区 1(静岡県)、愛知県 1、近畿地区 1(和歌山県)、大阪地区 1、中国地区 1(島根県)、四国地区 1(高知県)、九州地区 1(大分県)、福岡県 2)、ポスター発表 25 発表(山形県 1、福島県 2、東京都 1、神奈川県 3、静岡県 1、兵庫県 5、大阪府 2、山口県 1、香川県 1、福岡県 4、佐賀県 2、熊本県 1、長崎県 1)が行われた。

続いて、「幼児教育のこれまでとこれから」をテーマに小田豊前国立特別支援教育総合研究所所長と安家周一(公財) 全日私幼研究機構副理事長による対談が行われた。また、2 日の日程と並行して岡健大妻女子大学教授によるファシリテーションワークショップ((仮称) 公開保育コーディネーター養成講座)が行われた。

◇全国研究研修担当者会議の開催

平成 26 年 1 月 23 日・24 日の両日、京都府京都市の京都ガーデンパレスにおいて、「平成 25 年度全国研究研修担当者会議」が開催。あわせて(仮称) 公開保育コーディネーター養成講座も開催し、全国から養成講座の受講者と都道府県研究研修担当

者あわせて120名の先生方が出席した。1日目は「研究研修委員会の取り組み」について安達譲・（公財）全日私幼研究機構研究研修委員長から報告を行った。続いて、「縦断研究について」田中雅道（公財）全日私幼研究機構理事長から報告を行った。記念講演では「砂場と子ども」をテーマに笠間浩幸同志社女子大学現代社会学部現代こども学科教授が講演を行った。次に、安達譲研究研修委員長、宮下友美恵研究研修副委員長、加藤篤彦研究研修委員、濱名浩研究研修委員、コーディネーターに秦賢志研究研修協力委員による（仮称）公開保育コーディネーター養成講座が行われた。2日目は（仮称）公開保育コーディネーター養成講座が行われ、講師に岡健大妻女子大学教授を迎え講座が行われた。

◇第29回設置者・園長全国研修大会における研究講座（分科会）の企画・実施

本委員会として、第29回設置者・園長全国研修大会（北海道旭川市）にて、研究講座（分科会）を企画・実施。『新制度における幼児教育の質について考える』をテーマにパネリスト：岡健大妻女子大学教授、安家周一（公財）全日私幼研究機構副理事長、黒田秀樹（公財）全日私幼研究機構研究研修副委員長、コーディネーター：安達譲（公財）全日私幼研究機構研究研修委員長によるシンポジウムを行った。

◇地区教育研修大会の実施

北海道地区＝8月1日・2日（北海道・札幌市）、札幌ブロック：10月18日・19日（札幌市）、道央ブロック：8月24日（千歳市）、道南ブロック：10月12日（函館市、北斗市、長万部町、江差町）、道東ブロック：9月28日（釧路市）、道北ブロック：10月19日（旭川市）、東北地区＝10月18日・19日（岩手県・盛岡市）、関東地区・神奈川県＝8月8日・9日（群馬県・高崎市）、東京地区＝7月24日・25日（東京都・千代田区）、東海・北陸地区＝8月1日・2日（長野県・松本市）、近畿地区・大阪地区＝7月25日・26日（兵庫県・神戸市）、中国地区＝8月20日・21日（鳥取県・鳥取市）、四国地区＝8月5日・6日（愛媛県・松山市）、九州地区＝8月8日・9日（鹿児島県・鹿児島市）

◇地方の教育研修体制のサポート

各地域における教育研修体制のサポートについて検討を行い、各都道府県における研修会に対する助成事業を行った。

◇「研修ハンドブック」の活用周知・頒布

幼稚園における学校評価に伴い、各教員の研修履歴等が残せるよう「保育者としての資質向上研修俯瞰図」にもとづき、「研修ハンドブック」の周知・

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス



サーバー
二重化!

らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。



スマホ
で

らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。

ぜ～んぶ学研に
おまかせ!!

心機一転！
リニューアル

オリジナル！
キャラクター
ロゴ

Flashで
動画!

らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新
もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にも
システム併用でご対応いたします。

活用について検討を行った。

◇優秀教員表彰者制度の実施

本財団「優秀教員表彰者」制度の要項等に従い表彰者を5人選定し、第4回幼児教育実践学会（8月23日）において表彰式を行った。

◇「いのちを大切に作る日」への取り組み

命の貴さに向き合うなかで命あることに感謝すると共に、3月11日の出来事に思いを寄せる日を制定し各地域・各園での取り組みを奨励した。

◇学校評価

私立幼稚園における保育の質の向上に寄与する学校評価のあり方について調査研究を進め、自己評価及び学校関係者評価の推進を図るとともに第三者評価のあり方について検討を行い、「私立幼稚園における学校評価実施支援システムに関する研究～自己評価、課題の解決等に対する支援を行う評価者の養成」、「公開保育コーディネーター（評価者）ハンドブック」の報告書を作成した。

私幼時報において年間を通して、私立幼稚園における学校評価への取り組みに関する記事を掲載し、学校評価への取り組みの周知を図った。

◇東日本大震災への対応

東日本大震災で被災された福島県の私立幼稚園（3園）における復興への取り組みを撮影し記録映像「原発事故、福島の幼稚園は一環境喪失の中で保育の原点に立ち返る」（106分）を企画・制作した。

◇幼児教育における国際交流等に関する事業

平成26年3月29日（土）に開催された幼児教育国際シンポジウム「乳幼児教育国際シンポジウム～保育実践政策学の創成～」に協力・後援し、役員等を派遣した。また、昨年度行われた「東アジアの幼児教育改革動向～韓国・台湾の乳幼児教育改革に学ぶ～」の報告を私幼時報に毎月掲載した。

◇PTA しんぶんの発行

PTA しんぶんでは「子どものしあわせを願う親と先生のひろば」をスローガンに、幼児教育や幼児の発育・子育てに役立つ情報等を掲載した。特に4月号は「幼児教育の無償化実現を願う・特別号」として安倍晋三内閣総理大臣からのメッセージも掲載して、全国の私立幼稚園全園児に配布した。

有名人の子育て体験や幼稚園体験、子育てにかかる学識経験者からのコメント、子育てのヒント、全国の園長等が執筆する「育ての心」「ふれあい」などのコラムも掲載した。

理事長・園長・副園長・主任…保育現場をマネジメントするすべての保育者のために

園の未来をデザインする 保育ナビ

7月号の主な内容

特集 できる園の「言い方・伝え方」～保護者対応に強い園は言葉遣いが違う～

- 園の未来が見えてくる 保育の夜明け
これからの時代に合った保育者による研究のあり方
- 国の動きを読む！ 研究者の目
公定価格の骨格とは——認定こども園の場合
- ここをチェック！ 園の防災対策・危機管理・プール事故対応
- スピーチ実践術！ セブ／お泊り保育 ほか

月刊保育雑誌

定価：本体価格926円＋税
B5判 72ページ

・人材育成の連載が充実！
・ホームページ連動企画
もお楽しみに！



ISBN978-4-577-81357-7 727

ご注文・定期購読のお申し込みは下記まで
03-5395-6608 営業推進部

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <http://www.froebel-kan.co.jp>

キンダーブックの
フーベル館

◇賛助会員の加入促進

賛助会員の加入促進に努め、前年度より会員数を増やすことができた。

◇私幼時報の発行

私幼時報は、より一層読みやすくすることを目的に、平成25年5月号(4月発行号)より版型をA4版に変更、ページ数も増やして(32頁)、掲載内容の充実にも努めた。

幼児教育の無償化、子ども・子育て支援新制度、東日本大震災関連、私立幼稚園における学校評価、幼児教育における縦断研究等の記事を掲載するとともに、免許状更新講習の認定一覧を掲載するなどの情報提供を行った。また、第5回幼児教育実践学会の口頭発表・ポスター発表研究概要を掲載した。

◇ホームページを活用した広報活動

ホームページに関する小委員会を設置して、ホームページのリニューアルについて検討を行い、平成26年度末の公開に向けて作業を進めた。

◇幼児教育の発展に寄与する絵本の顕彰

第5回ようちえん絵本大賞は、「新しい絵本をみつけよう」をテーマに、いろいろなジャンルから、“子どもに読み聞かせたい絵本”、“お父さん・お母さんにお勧めしたい絵本”を選考の基準として、最近出版された絵本の中から調査広報委員会が選考を行った。その結果、特別賞3作品を含む15冊の絵本が第5回ようちえん絵本大賞に選ばれた。

【(公財)全日私幼研究機構理事長賞】いのちの木(ポプラ社)、【調査広報委員長賞】ゆきのうえゆきのした(福音館書店)、【こどもがまんなかPROJECT】パンダ銭湯(絵本館)、【その他入選作品】ぞうはどこへいった?(偕成社)、おばけなんてないさ(ポプラ社)、しろもくろも、みんなおいで(童心社)、ひみつのカレーライス(アリス館)、おかあちゃんがつくった(講談社)、オオカミがとぶひ(イースト・プレス)、そんなときどうする?(岩波書店)、おかん(大日本図書)、せんろはつづくどこまでつづく(金の星社)、りんごかもしれない(ブ

ロンズ新社)、まるまるまるのほん(ポプラ社)、もったいないばあさんのいただきます(講談社)。

また、今回は日本の民話部門を設け、日本の民話等の中から、子どもたちに是非読み聞かせたい絵本の選定を行った。その結果14冊の絵本が選ばれた。いっすんぼうし(岩崎書店)、かえるをのんだととさん(福音館書店)、かぐやひめ(小学館)、かさじぞう(福音館書店)、かちかちやま(ワンダー民話館)、かにむかし(岩波の子どもの本)、さるじぞう(金の星社)、だいくとおにろく(福音館書店)、ちからたろう(ポプラ社)、泣いた赤おに(偕成社)、ねずみのよめいり(ワンダー民話館)、はなさかじいさん(あかね書房)、ふしぎなたいこ(フェリシモ出版)、ももたろう(福音館書店)

◇こどもがまんなか PROJECT 推進のための広報活動

PTA しんぶん、私幼時報、ホームページ等において、「こどもがまんなか PROJECT」にかかる記事の掲載や告知を行うなどして、こどもがまんなか PROJECT 推進のための広報活動を行った。

◇公益財団法人への移行

平成25年4月1日に登記を行い、「公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構」としての運営がはじまった。

PTA しんぶん ぜひご活用ください

「全日私幼連 PTA しんぶん」は「子どものしあわせを願う親と先生のひろば」としての役割を果たしています。

PTA しんぶんを希望される幼稚園は、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構までお問い合わせください。

☎ 03-3237-1957

(公財)全日本私幼研究機構・調査広報委員会

(公財) 全日私幼稚園教育研究機構
正味財産増減計算書

平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで

(単位: 円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	24,994	29,606	△ 4,612
特定資産運用益	3,346	3,433	△ 87
会費	72,041,500	70,748,450	1,293,050
普通会員会費	3,000,000	3,000,000	0
賛助会員会費	69,041,500	67,748,450	1,293,050
事業収益	65,749,883	57,585,418	8,164,465
全国研究研修担当者会議収益	1,190,000	1,190,000	0
教員免許更新受講料収益	59,363,643	52,199,500	7,164,143
調査研究事業収益	2,957,240	2,628,918	328,322
幼児教育研究実践学会収益	2,239,000	1,567,000	672,000
補助金等	69,038,000	55,668,163	13,369,837
日宝協助成金等	40,005,000	37,811,163	2,193,837
地区別研修会助成金	17,033,000	17,857,000	△ 824,000
全日私幼連助成金	12,000,000	0	12,000,000
寄付金	36,000	0	36,000
雑収益	4,939,424	4,825,592	113,832
受取利息	20,964	20,664	300
その他収益	4,918,460	4,804,928	113,532
事業活動収入計	211,833,147	188,860,662	22,972,485
(2) 経常費用			
事業費	206,305,876	168,881,909	37,423,967
給料手当	19,980,989	24,264,683	△ 4,283,694
臨時雇賃金	1,962,360	1,616,020	346,340
退職給付費	7,603,877	2,094,474	5,509,403
福利厚生費	3,108,477	3,337,539	△ 229,062
会議費	35,525,178	29,268,357	6,256,821
旅費交通費	22,349,116	14,169,753	8,179,363
通信運搬費	40,740,680	34,738,513	6,002,167
消耗品費	6,099,241	1,369,246	4,729,995
印刷製本費	49,647,089	41,165,069	8,482,020
賃借料	2,937,634	2,550,247	387,387
諸謝金	13,930,084	12,634,419	1,295,665
支払手数料	433,959	33,489	400,470
支払寄付金	1,000,000	1,000,000	0
雑費	987,192	640,100	347,092
管理費	15,296,957	11,268,649	4,028,308
給料手当	4,995,247	2,696,075	2,299,172
退職給付費	1,900,969	232,719	1,668,250
福利厚生費	777,119	370,837	406,282
会議費	394,289	795,181	△ 400,892
旅費交通費	4,704,081	5,282,352	△ 578,271
通信運搬費	348,929	246,509	102,420
消耗什器備品費	0	2,415	△ 2,415
消耗品費	0	193,434	△ 193,434
印刷製本費	0	45,150	△ 45,150
賃借料	0	152,653	△ 152,653
諸謝金	468,869	240,000	228,869
支払負担金	629	72,816	△ 72,187
雑費	1,706,825	938,508	768,317
経常費用計	221,602,833	180,150,558	41,452,275
当期経常増減額	△ 9,769,686	8,710,104	△ 18,479,790
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 9,769,686	8,710,104	△ 18,479,790
一般正味財産期首残高	83,967,343	75,257,239	8,710,104
一般正味財産期末残高	74,197,657	83,967,343	△ 9,769,686
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産期末残高	100,000,000	100,000,000	0
III 正味財産期末残高	174,197,657	183,967,343	△ 9,769,686

(公財) 全日私幼幼児教育研究機構
貸借対照表
平成26年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
流動資産			
現金・預金	77,142,448	97,533,183	△ 20,390,735
未収入金	2,957,240	2,628,918	328,322
流動資産合計	80,099,688	100,162,101	△ 20,062,413
固定資産			
基本財産			
基本財産引当資産	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
特定資産			
退職給付引当資産	6,853,760	16,309,223	△ 9,455,463
特定資産合計	6,853,760	16,309,223	△ 9,455,463
固定資産合計	106,853,760	116,309,223	△ 9,455,463
資産合計	186,953,448	216,471,324	△ 29,517,876
II 負債の部			
流動負債			
未払金	187,500	0	187,500
前受金	5,541,200	15,856,400	△ 10,315,200
預り金	173,331	338,358	△ 165,027
流動負債合計	5,902,031	16,194,758	△ 10,292,727
固定負債			
退職給付引当金	6,853,760	16,309,223	△ 9,455,463
固定負債合計	6,853,760	16,309,223	△ 9,455,463
負債合計	12,755,791	32,503,981	△ 19,748,190
III 正味財産の部			
指定正味財産			
寄付金	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
一般正味財産	74,197,657	83,967,343	△ 9,769,686
正味財産合計	174,197,657	183,967,343	△ 9,769,686
負債及び正味財産合計	186,953,448	216,471,324	△ 29,517,876

子どもの発想の意外性について
～リアルを追求したごっこ遊びからの展開～

長岡 実生（学校法人山本学園 認定こども園竹田幼稚園）

○研究主題の設定理由

年中児の育ちとして、よりリアルな物を求める姿がある。子ども達の大好きなごっこ遊び。ままごとやお店屋さんごっこでは、大人の真似事をしてなりきって楽しんでいる。そこで、ごっこ遊びの内容をよりリアルにすることで遊びが今以上に盛り上がり、子ども達の感性も育つのではと考え、クラスでお店屋さんごっこを行った。

リアルを追求していく中で子どもならではの意外な発想が飛び出してきた。

○研究の流れ… 幼児の姿(・)、教師の思い(☆)
教師のかかわり(◇)

「何屋さんにしようかな？」

夏休み中に色々なお店を見て、やってみたいお店を考えてきた。夏休み明け、どんなお店を見てきたのか、何屋さんをやってみたいのかをクラスで話し合った。

【8月24日】

- ・夏休み中に見てきたお店を喜んで発表するが、やりたいお店を聞くと「それもいいね」と人の意見に流されてしまい話し合いが成り立たない。

◇話したい気持ちを受け止めつつ引き出し、色々なお店に興味が沸くよう進める。

☆全員新入園児のクラス。経験が少なく、白熱した話し合いはまだ難しい。自由に絵を描き、発表することで人の意見に流されず話し合えるのではないだろうか…。

【9月3日】

- ・やってみたいお店をそれぞれ絵に描いてみる。



K 男…たこ焼き屋さんの絵を描く。でこぼこの鉄板や、ソースの容器、かつおぶし等、細かい部分まで描いている。それを見て、「K 男君すごいね」「おもしろそう」と子どもたちも興味深々

- ・発表を聞き、相槌を打ちながら話を聞く子ども達。K 男のたこ焼き屋さんの絵にはみんなが興味を示し、やってみないと素直に感じた様子。たこ焼き屋さんに決定する。

☆絵に描いたことで、人の意見に流されず、自分の考えを出すことができたようだ。また、目で見ただけでより興味を持って話し合いをすすめることが出来、「たこ焼き屋さん」に全員納得。

「たこ焼き屋さんに決定！どうやって作ろうか…」

【9月6日】

- ・帰りの会で、どんな材料で作るのかを話し合う。「新聞紙を丸めて作ったら？」との声に、「でも色が変わるよ？」という疑問が出てくる。「折り紙で包んだら？」という声にみんな納得し、「今度作ってみようね」と話している。

☆どんな材料を使うとどんな形になるのか等、見通しが立つようになってきている。今後も子どもの考えを出来るだけ取り入れていきながら、よりリアルになるよう意見を引き出していく。

【9月10日】

- ・皆が考えた作り方で作ってみようと誘いかけると、たくさんの子が寄ってくる。



＜今日の作り方＞

新聞紙を丸め、折り紙で包む。
ソース、青のり、紅しょうがをマーカーペンで描く。

【9月12日】

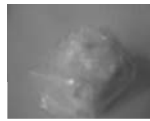
- ・作ったたこ焼きと本物のたこ焼きを比べる。
- ・「固そう！」「冷たそう！」との声。
- ・K 男「本物のたこ焼きは、もっと柔らかいから、新聞紙の中に綿を入れたら？」と言い出す。その場で綿と新聞紙で試してみると、外側の新聞紙が硬いためうまく柔らかくならない。Y 男「スポンジを使ったら？」と提案する。
- ・K 男「ソースもマーカーペンじゃなくて、絵の具にしたら？」と言うと、周りの子からも「いいね！！」と声上がる。

みんなで考えた材料はこれ！

- ・たこ焼きの生地…スポンジ
- ・ソース、マヨネーズ…絵の具
- ・青のり、紅しょうが…画用紙

作り方

- ① スポンジを丸め、テープで留める。



- ② 絵の具でソースをつける。



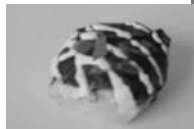
(テープで留めたことにより水彩絵の具では失敗。油絵の具を使ってみた)



- ③ マヨネーズ、細かく切った青のりと紅しょうがをつける。



完成！！



「たこ焼き屋さんやらないの？」

【10月10日】

☆夏休み明けから長い期間取り組んできたため、子ども達の気分にもムラがあり、一生懸命取り組む子とそうでない子の差が出てきている。改めてクラス全体で話し合いをして、もう一度意識を高めていく。

◇お店の中にはどんなものがあるのかを問かけ、全員で考えられるよう話をしていく。

- ・レジや箸、お皿等、様々な道具の名前が出てくる。看板を何で作るのかという話をした。「紙は？」「ペラペラで看板に見えない」という声が上がリ「段ボールに貼る！」という対策案が出てくる。以前よりも活発に話が進む。「ペットボトルも使えるよ」「あ～あのおでん屋さんとかにあるやつだよね！」という声も聞こえる。ペットボトルをちょうちんに見立てているようだ。

- ・鉄板を卵カップで作るという話になるが、色の付け方について「クレヨンは？」「クレヨンじゃ染められないよ」「じゃあペンは？」等と議論になる。

☆お店屋さんを始めた当初はうまく話し合いが進まなかったが、何度か話し合いを重ねてきたことで、挙手や、相手の話を静かに聞くこと、反応や、反論をしたりと話し合いの仕方もうまくなって

きている。ペットボトルと聞いてちょうちんに見立てるといふ、面白い発想も出てくる。子どもならではの意見がたくさん出てきた。

「本物みたいなおみせにしよう」

【10月12日】

- ・早速、昨日話した材料を持って来た子が何人もいる。

【10月16日】

- ・卵パックを使って鉄板を作ることになったが、話し合いで出てきた色の染め方をみんなで試してみる。ペンやクレヨンでは染まらず、「画用紙がいんじやない？」との声が出てくる。

☆失敗することで「成功するにはどうしたらいいの」かを考えることが出来た。何事も試してみることが、子どもたちにとってはいい経験になるのでは…？

【11月1日】

- ・朝の遊びの時間に、足りなくなったたこ焼きをみんなで作る。材料にスチロールのまゆ玉を準備しておくと、様々な色に染め出す。
- ・「これは、ぶどう味。これはイチゴ味。」「デザート

☆ぶどう味など実際には無いたこ焼きだが、子ども達ならではの面白い発想が垣間見えた。とっさに出てきたアイディアも大切に拾い上げていきたい。

〇まとめ

- ★リアルを追求する事で、子ども達のやる気は高まり、みんなで作り上げる意識を持つ事ができた。
- ★本物に憧れる一方で、「おでん屋さんのちょうちんを作ろう」「ブドウ味のたこ焼きだよ」等、意外な発想も出てきた。しかし、それも今の年中児の素直な姿である。否定せずに子どもならではの考えをうまく取り入れることが大切だと感じた。
- ★活動中、飽きる姿が見られた。子ども達の気持ちにはその日その日で変化があり、それに対応していく為にも、遊びの提供の仕方や、環境の設定の仕方を日々見直していかなければならないと感じた。



第4回 幼児教育実践学会ポスター発表「健康な心身発達のための保育実践、検証と改善」

学校法人 中沢学園 みなみ若葉幼稚園 主任 川島 千津

会津若葉幼稚園 主任 二塚 木綿

■園の紹介

広い運動場は雪害が少ない人工芝を設置、よじ登り駆け上がり駆け降りの多い運動スペースを設け、身体機能の発達を自然に促す設計。室内ソーラー温水プールで遊び、健康で丈夫な身体づくりを目指している。

■はじめに

幼児期の成長発達には、自然の中で伸び伸び遊ぶ時間や空間、保護者や先生に見守られ褒められ励まされ運動能力を適切に向上させる環境整備が重要である。力いっぱい身体を動かして遊び、自分なりに挑戦して自信や意欲を育てる保育に努めている。

昭和54年開園当時から、心身の成長発達や体力の実情把握と向上を目指し取り組んでいる「運動能力測定」を、幼児運動能力研究会の「幼児の運動能力全国調査」と重ね合わせて検証し保育の質の改善を図った。

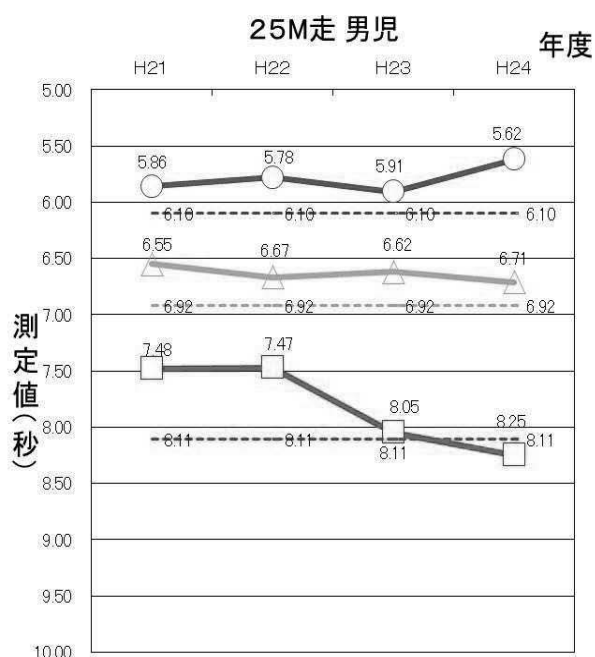
■震災による運動不足対策に役立った「運動能力測定」

毎年10月に満3才から6才までの全園児対象に実施し、運動能力がバランス良く例年通り伸びているか、確認している。

平成23年3月の東日本大震災と原発事故の半年後の平成23年9月、測定を行った結果3～4オクラスで経験を積んだ5才の子どもへの影響は少なかった。震災時2～3才の幼児が入園して半年後測定を行った結果、発達の差が目立った。

平成23年度は戸外遊びの時間制限はあったが、短時間でも園庭で遊び、広いホールで伸び伸びと遊び、室内温水プールで存分に遊んだ。戸外遊びを積極的に行うことで回復の兆しがあり、震災から1年6か月後の平成24年度は、制限の影響がほとんどない例年通りの結果であった。

※グラフは平成21年～24年度学年別平均値を示す。（測定7種目のうち25m走のみ抜粋）



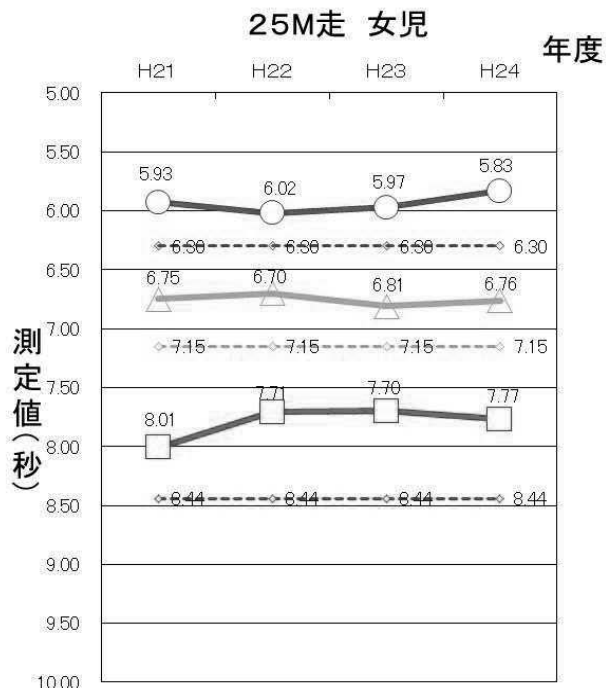
【平成24年度

25m走の傾向】

5才児は制限の影響がなく、十分戸外遊びができたため著しく伸びがあった。

4才男児はやや低い数値、女児は平均水準。

3才男児は過去最低値、外遊び経験が足りない。女児は平均水準。



サイコロバルーンを追いかけて園庭を思い切り走る。



大型ジャンプマットで連続跳びを繰り返し楽しむ。

生涯の健康の土台となる生活習慣の基礎を作るために、身体其自然リズムを考慮した生活を幼児期から心掛けるよう、測定結果を成長の記録として各家庭に知らせている。「子どもの記録の伸びや得意不得意種目、経験不足などが分かり、意識して運動遊びに取り組むきっかけとなった」「タイムを競ったり繰り返しチャレンジすることで、頑張りたい!と意欲が高くなった」など感想が多く寄せられ、保護者は運動に対する意識が比較的高く、帰宅前に積極的に（開放されている園庭で）戸外遊びをする家庭が増えている。

卒園生で、小中学校、高校、大学、社会人になってもスポーツを続け、「陸上」「水泳」「なぎなた」などの種目で地区大会、県大会、全国大会上位入賞者が増加している。

■まとめ

幼児は遊びや生活の中で自ら身体を動かして多様な動きを獲得し、体力や運動能力を高める。幼稚園は子どもが夢中になって遊び、自発的に運動できるような広い場所や時間が保障されている、現代では数少ない環境と言える。

幼い時から良い生活習慣（早寝早起き、朝食をしっかりバランス良く何でも食べるなど）を身につけることは、身体の発育はもとより、豊かな心、学習への意欲を育む上でも欠かせない。

幼稚園入園から卒園まで（3～4年間）継続して測定を行い、運動面の発達や健康増進・体力向上のために意識して生活していくことの重要性を家庭にも理解していただけるよう、検証し伝える必要がある。適切な運動の習慣が身につく幼稚園生活が生涯の健康維持の基盤となって、さらに運動好きになり色々なスポーツを楽しむよう、健康で豊かな将来へと繋げていけるようにしたい。

■改善点と今後の課題

“運動能力測定”の結果から保育の方向性を見出し、年齢ごとの保育の組み立てや援助配慮事項を検討する。個々の運動能力をどう伸ばしていけるか、遊びや運動の在り方について保育を振り返り、家庭や地域にも具体的な情報を発信し共に育てる姿勢を持てるように努力したい。

幼児期に基本的な生活習慣を確立させることはもちろん、主体的に身体を動かす遊び（活動）を生活全体の中に確保していくことが引き続き大きな課題である。

Jim Grieve カナダ オンタリオ州教育省 乳幼児教育担当 副大臣／講演概要

未来を担う子どもたち ～幼児の発達に関する国際的研究動向と実践～

(公財) 全日私幼研究機構 縦断研究チーム 平林 祥

■幼稚園チーム

5～6歳の全日制幼稚園についてお話をします。幼稚園の全日制への移行は、5年かけて6,000園以上で実施してきました。

保育室には2人の専門家がいます。1人は幼稚園教諭の免許を持った教師で、もう1人は登録された保育士で、その2人がチームを組んでいます。カリキュラムの教育的な面を理解をする教師と、乳幼児期の発達を深く理解した登録保育士という組み合わせは、非常に効果的です。

政府の立場から見るとこれはとても大きな投資です。しかし、この施策を実施した最初期から、投資の効果が現れていることを示す研究を後で紹介したいと思います。

■遊びをもとにした教育の利点

幼稚園のプログラムは遊びを中心としており、教師は尋ねる／探求する姿勢を求められます。この背後にあるのは、「子どもは、遊んでいるときに学んでいる」という考えです。それは、単におもちゃを床に並べて「さあ、遊びなさい」と子どもに言うことではありません。子どもの目の前に興味深い教材を用意し、それを探求する機会を与えるとともに、子どもたちと対話することです。全ての年齢の子どもたちが、実際の体験に基づいて学ぶことが大切です。

この一連の写真は、子どもたちが自分たちのコー



ヒーショップを作っている場面を撮影しています。この場面には、どんな意味があるのでしょうか？

このメニューは、驚くべきものです。英語ネイティブでも読むのが難しいですが、コーヒーやカップチーノ、サイズもSML、ドーナツなども書いてあります。幼児と接する機会のない人なら「誤字・脱字がある」と言うかもしれません。しかし、これは子どもたちが独力で何を書くかを考え、実際に書いたもので、彼らにとって大きな意味のあるものです。そのため、彼らはこれについてたくさん話し合います。

これは本物のコーヒーマーカーですが、彼らは実際にコーヒーを入れているわけではありません。しかし、本当にコップの中にコーヒーを入れるつもりで目方を量って遊んでいます。計量・測定で、算数の要素を含みます。

遊びを中心とした学びは、文脈の中での学びだということに注目してください。椅子に座って机の上で文字を学ぶまでもなく、限られた指導の中で、自律し、子どもたちは本当に自分たちでコーヒーチェーンを切り盛りしているつもりになって、集団として多くの学びを経験しています。

教育現場では、子どもたちの学びを促す問いかけ方があると言います。かつて私が保育現場に行き、子どもが積み木で作ったタワーがゆらゆら揺れているのを見ると「何をしているの?」と聞いていました。今の私は、しばらくその活動を見守ったあとに「どうしたら、そのタワーが倒れなくなると思う?」と問いかけ、すぐにまた下がります。担任の先生や訪問者は、誰が・いつ・何を・いくつ、といった「薄っぺらな」質問をしないよう気をつけることが大切です。そういう問いは単純すぎて、子どもに考えることを促しません。教師や保護者が子どもと共に学ぼうとするときは、「もしこうしたら、どうなるかな?」「どうして、そうなったのかな?」「これについて、どう思う?」といった「ぶ厚い」質問をして欲しいですね。

■幼児期の脳の発達

最新の発達研究を読むと、多くの新生児の脳では、神経接続が固定化されている部分は約 20%に留まると言われています。父親・祖父・教師・幼児教育

者という立場から見ると、これは残りの 80%に影響を与えられるかもしれないという意味です。

神経生物学や後成的遺伝学など、脳に関わる研究は日進月歩で更新されていきます。私たち保育者は、その知見に合わせて実践を変えていくことは大切なことです。研究を通して明らかになってきたのは、「調律」と言われる目線を合わせて話し合う行為が、子どもの脳を刺激してシナプス形成を促すということです。教師や保育士が子どもの集団を右から左へ動かして指示を出すだけで、一人ひとりと関わり、目を合わせて話し合うことをしなければ、子どもたちの発達の機会を逸していることになります。

新生児と幼児のシナプスを比較すると、幼児のシナプス密度が非常に大きいことが分かります。それは、子どもが深い体験をして、それがシナプス形成を促し強化するからです。成長に沿って見ていくと、6歳で最も密度が大きくなり、思春期の密度の方が小さくなります。これは悪いことではなく、日常的に使われる経路が強化され、使われない経路が除かれることで脳が洗練されているのです。

脳内で、重要な経路が形成される感受性が最も強い時期は、はじめの3～4年間です。両眼視や中枢聴覚系、習慣的反応、言語、情動調整などの経路は非常に早い時期に形成されるため、無視するわけにはいかないことを保護者や幼稚園・保育所の先生方に理解していただくことが大切です。

(つづく)



**バス専用機不要！
スマホで簡単バス運行管理！**

くるんとバス

-通園バス位置情報システム-

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットのGPS機能を活用したシステムで、バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を提供するクラウド型サービスです。



いつもNAVI

「いつもNAVI 動態管理サービスfor送迎バス(くるんとバス)」は、株式会社ゼンリンデータコムの登録商標です。



株式会社 **チャイルド社** インターネット課

TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

平成26年度

日本私立学校振興・共済事業団より 特定健康診査のご案内を送付します!

特定健康診査とは?

…40才から75才(誕生日当日まで)の加入者及び被扶養者に対して
実施するメタボリックシンドロームに特化した健診です。

私学事業団



被扶養者分
健診データ

医療機関



特定健康診査のご案内
受診券(被扶養者分)

加入者の定期健診結果
(人間ドックを含む)

必ずお渡し
ください!

私立幼稚園



受診券
(被扶養者分)

ご家族(被扶養者)



特定健康診査受診
(平成27年3月31日まで)

特定健康診査受診状況

区分		25年度
実績	全体	58.4 %
	幼稚園	48.4 %

(平成26年5月8日現在)

平成26年度の目標率は
70%です!
受診率の向上にご協力ください。

日本私立学校振興・共済事業団
福祉部 保健課 健康管理係

〒113-8441 東京都文京区湯島1-7-5
電話 03 (3813) 5321 (代表)
FAX 03 (3812) 8775

ゆとり

梅雨まっただ中、アジサイの花が美しく園庭を彩る季節にさしかかりました。また、教育現場はもとより、経営面においても繁忙期の一学期もようやく出口が見えてきました。来年こそはもう少し「ゆとり」をもって過ごせるようにしようと改善を重ね続けるものの、何年たっても達成されることがないような気がしてなりません。今年においては、原因の一つに平成27年4月からスタートする「子ども・子育て支援新制度」への対応があります。公定価格が示され、これまで通り私学助成を継続すべきかそれとも施設型給付を受けるべきか、経営者としての視点から、教育者の視点から、また保護者としての視点から多角的に検証し園の進むべき道を模索しています。（公社）愛知県私立幼稚園連盟主催の設置者会が5月に、愛知県主催の説明会が6月に開催されました。事前のヒアリングも含め多くの質問が飛び交う一方、分からないことが分からないという雰囲気も少なからず漂っていたことは否めません。それぞれの地域性や自園の理念を鑑み、未来の子どもたちにとって最善の環境をつくる判断がなされることを願って止みません。

愛知県は、大きく分けると尾張、名古屋、三河の3つの地域に区分されます。南海トラフを抱えるこのエリアにおいては、東日本大震災の教訓をもとにそれぞれの地域における地理的背景などを加味した避難方法や有事においても活用できる連絡手段などを考慮した防災訓練が行われるようになってきました。「子どもたちの命を守る」「子どもが子どもらしく豊かに育てる環境を守る」そんな当たり前な「守る」をするためには、自分への「ゆとり」はどうしても後回しにならざるを得ないのかもしれないかもしれません。

（公益社団法人愛知県私立幼稚園連盟常任理事、海部郡大治町・大治幼稚園／山崎拓史）

新制度への期待と不安

新緑の園庭に新入园児の歓声がこだまし、身も心もさわやかな季節のはずが、なぜか心は曇り空です。若葉マークの園児が日々成長する姿に喜びを感じつつも、どこかすっきりとしない。原因は言わずと知れた「新制度」です。特に、さほど待機児がいない地方都市では、新制度への期待は大きいのですが、新・認定こども園では人材確保など新たな課題も浮上してきますので悩みは深いのです。そのため、一昨年から福岡県での教員募集活動を展開し、更に本年度は「好循環実現のための経済対策」による「地域人づくり事業」を活用しての人材確保とOJTやOFFJTによる資質向上にも努めています。

このように、新制度の命題の「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」に地方なりに取り組んでいますが、もう一つの命題の「公私・幼保の平準化」は、地方での取組には限界があり、中央に期待せざるを得ません。しかし、ようやく示された公定価格の仮単価表（イメージ）も、従来の運営費を担保できるか定かでなく、こうした状態で進むべき道を選ばねばならないのでしょうか？料亭で時価としか表示されていない料理から選べという状況と同じです。

更に、鹿児島県内の動きもさまざまで、中核都市鹿児島市では「待機児解消」を掲げて幼稚園の幼保連携型移行へ積極的に導いていただいています。子ども子育て会議さえ思うに進まぬ自治体もあり、同じ県内でも大きな温度差があります。仮に順調に進んでも「保育の量的拡大・確保」だけへの焦点化では困ります。私どももつい制度ばかりに目が向きがちですが、是非、「教育・保育の質的改善」に大きく効果を出せるような制度移行にして欲しいものです。

（一般社団法人鹿児島県私立幼稚園協会副会長、鹿児島市・吉田南幼稚園／橋口孝志）

全日本私立幼稚園連合会 私立幼稚園経営実態調査 ご協力をお願いします

全日本私立幼稚園連合会の経営研究委員会では、例年同様「私立幼稚園経営実態調査」を実施しています。昨年度は皆さまのご協力により、56.6%の回答率が得られました。

本調査は、私立幼稚園の各種施策の基礎資料として実施するものです。今年度も調査への回答にご協力くださいますようお願いいたします。

なお、本調査は、インターネットでの回答を行っております。経営実態調査入力マニュアルは、私幼時報6月号に掲載しております。

<http://www.youchien.com/>

編集後記

柔らかい葉っぱが大好きです。

新緑のころ、瑞々しい柔らかい若葉が木々にたわわに付いています。太陽を浴び雨にあたるうちに段々と色濃く、たくましくなります。毎年のそのような葉っぱの様子が毎年の子どもたちの様子と重なります。4月のザワザワが落ちていた頃、泣きながら来ていた子どもがニコッと笑顔をみせて、幼稚園を楽しみに喜んで来る子どもたちの笑顔を見ると、この仕事でよかったなと思います。園外保育に出かけたとき道の街路樹を見上げて「この木ようちえんにある？」って年中さんが聞きました。木々の葉っぱも形、色、匂い、触感、樹々の種類も色々です。幼児期にできるだけ自然環境に目をむける機会があれば将来自然を大切に作る心が育つと思います。時代の流れの中で施設の名称は変わっても、子どもたちの今の記憶があたたかい色でありますように願っています。

(調査広報委員・川名マミ)

地震対策は お済みですか？

耐震補強の専門スタッフが疑問にお応えします。

- 園児を地震から守るために！
- 園児の保護者が安心できるように！
- 建て替えまでの応急処置に！

外付け施工なので工事中も普段通りに使用可能

通風・採光・出入り
も今まで通り

公的機関の
技術評価取得

補助金対象工法



木造幼稚園



鉄筋コンクリート造 幼稚園

補助金を利用できます！

私立幼稚園施設整備費補助金(文部科学省)申請により、要件を満たす建物の耐震工事についての補助金

補助額 全体費用(設計+工事)の

最大50%

お問い合わせ、資料請求は



0120-260-220 (受付時間) 9:00~17:00

ウッドピタ

検索

株式会社ピタコラム

ウッドピタ事業本部

(株)ピタコラムは矢作建設工業(株)(東証一部上場)の100%子会社です。

平成 26 年度（第 5 回） 免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「教職についての省察並びに子どもの変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
宮城県仙台市	「子どもの変化についての理解」、「教職についての省察」、「教育政策の動向理解」、「学校の内外の連携についての理解」の 4 項目について、教員に求められる最新の知識・技能の習得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。	村野 敬一郎（宮城学院女子大学准教授）、三浦主博（東北生活文化大学短期大学部教授）、磯部裕子（宮城学院女子大学教授）、大迫 章史（仙台白百合女子大学准教授）	12 時間	平成 26 年 8 月 9 日～平成 26 年 8 月 10 日	80 人	平 26-81340-00762 号
神奈川県川崎市	「子どもの変化についての理解」、「教職についての省察」、「教育政策の動向理解」、「学校の内外の連携についての理解」の 4 項目について、教員に求められる最新の知識・技能の習得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。	曾野 麻紀（洗足こども短期大学幼児教育保育科講師）、堀 純子（洗足こども短期大学幼児教育保育科准教授）、桃枝 智子（洗足こども短期大学幼児教育保育科講師）、並木 真理子（洗足こども短期大学幼児教育保育科准教授）	12 時間	平成 26 年 8 月 4 日～平成 26 年 8 月 5 日	100 人	平 26-81340-00763 号
長野県松本市	「子どもの変化についての理解」、「教職についての省察」、「教育政策の動向理解」、「学校の内外の連携についての理解」の 4 項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識・技能の習得と今日的な教育課題についての理解を深める。	小林 紀子（小田原女子短期大学保育学科教授）、西山 薫（清泉学院短期大学教授）	12 時間	平成 26 年 8 月 1 日～平成 26 年 8 月 2 日	70 人	平 26-81340-00764 号

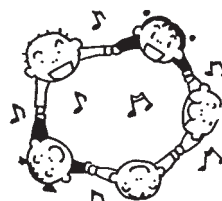
●選択領域「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道余市郡余市町	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の 2 つの事項について理解と実践をふり返し、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	松田 久美（北翔大学短期大学部こども学科講師）	6 時間	平成 26 年 8 月 30 日	100 人	平 26-81340-57130 号
北海道留萌市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の 2 つの事項について理解と実践をふり返し、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	傳馬 淳一郎（名寄市立大学短期大学部児童学科講師）	6 時間	平成 26 年 9 月 27 日	50 人	平 26-81340-57131 号
北海道札幌市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の 2 つの事項について理解と実践をふり返し、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	芝木 捷子（札幌国際大学短期大学部非常勤講師、なかのしま幼稚園理事長）	6 時間	平成 26 年 10 月 3 日	150 人	平 26-81340-57132 号
北海道北見市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の 2 つの事項について理解と実践をふり返し、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田 耕一郎（北翔大学非常勤講師、北見北光幼稚園理事長）	6 時間	平成 26 年 10 月 4 日	50 人	平 26-81340-57133 号
北海道勇払郡むかわ町	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の 2 つの事項について理解と実践をふり返し、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	原子 はるみ（函館短期大学保育学科准教授）	6 時間	平成 26 年 10 月 11 日	50 人	平 26-81340-57134 号
青森県青森市	本講習は、「幼稚園教育内容を深める」ことを目的に、講座Ⅰでは「保育者の役割についてあらためて考える」講座Ⅱでは「子どもをみる視点について」講座Ⅲでは「保育の記録について「ポートフォリオ」の活用と効果について」学び、保育内容を多角的にとらえることを目標とする。	岡 健（大妻女子大学家政学部児童学科教授）、岡本潤子（青森明の星短期大学非常勤講師、千葉幼稚園副園長）、飯野 祐樹（弘前大学教育学部講師）	6 時間	平成 26 年 8 月 11 日	30 人	平 26-81340-57135 号
宮城県仙台市	・「子どもの育ちと自然のかかわり」をテーマに、幼児期に必要な様々な自然体験、保育者としておさえておきたい自然に関する知識や保育実践のポイントについて説明し、理解を深める。 ・「遊びと環境」について講義を行い、幼児期の発達特性を踏まえ保育現場において、幼児にふさわしい生活と環境について考える。	山崎敦子（東北生活文化大学短期大学部講師）、東 義也（尚絅学院大学教授）	6 時間	平成 26 年 8 月 24 日	80 人	平 26-81340-57137 号
宮城県仙台市	・「幼児教育の課題と保育者間保護者との連携協力」について講義を行い、家庭や保育者との連携を通し、幼児教育の問題を考える。 ・「幼少期の音楽教育」をテーマに、子どもの感性の伸長や人間関係を深める手段としての音楽活動、歌唱方法・楽器の演奏法、あそびと音楽などについて、講義・演習を行う。	小野 真喜子（聖と学園短期大学教授）、大坪 豊（東北生活文化大学短期大学部教授）	6 時間	平成 26 年 8 月 30 日	80 人	平 26-81340-57138 号
秋田県秋田市	子ども理解や保育実践の考察を深めるには、教育現場で実際に子どもに接し、その体験を共有しながら協議し、講師の助言を得るのが最上の方法である。この講習では、市内の幼稚園で保育を實習した上で、講師の教育実践方法の講義を受け、保育実践における指導計画の立案と実践についてふり返し、評価の視点と手続きについて検討する。また、受講者の幼稚園や認定こども園においても、保育の計画と実践と評価が充実する様、職員間のコミュニケーションを円滑にする手法を含めてワークショップ形式で学び合う。	東 重満（札幌国際大学短期大学部非常勤講師、藤女子大学非常勤講師、学校法人東学園美術幼稚園園長）	6 時間	平成 26 年 10 月 17 日	50 人	平 26-81340-57136 号
福島県福島市	特別な支援を要する幼児に対して私たちはどのようなまなざしを向けたいのか、子ども達の学びやすさや過ごしやすさの実現のために私たちはどのように関わっていけばよいのか、講義を通じて考えてみたい。また、インクルーシブ教育システム構築が進められる中、特別な支援を要する幼児やその保護者を支援するために園全体で考えたり、他機関とつながったりすることの大切さをワークショップを通じて学び合いたい。	久保山 茂樹（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 企画部主任研究員）	6 時間	平成 26 年 8 月 5 日	40 人	平 26-81340-57139 号
群馬県渋川市	新制度の施行も含め、保育の質を更に高め地に足のついた実践がますます重要になる。未就園児の子育て支援や乳幼児の受け入れなどから、乳幼児とその育ちの特性の理解を深める必要も大きくなる。そこで本講習では、教育課程と保育課程を総論的に学び、3 歳未満児の発達特性をどのように 3 歳以降に繋げていくかを参加者同士で共に考えたい。	佐藤 康富（鎌倉女子大学短期大学部教授）、柳 晋（育英短期大学教授）、金子 仁（育英短期大学教授）	6 時間	平成 26 年 8 月 4 日～平成 26 年 8 月 5 日	30 人	平 26-81340-57140 号
群馬県渋川市	制度の見直しで幼児教育の多様化への対応が求められ、保育の質的向上が求められている。本講習では保育の本質を明確にし、さらにそれを向上させるために「子どもの発達」について多面的な情報の提供を受け、幼児期の発達をどう実践に繋げるかを視点を考えたい。あわせて現場における子どもの捉え方、評価の要である国語表現方法を本講座のカテゴリーに加え、日本語の本来持つニュアンスと保育における文脈理解の関係を探索する。	神長 美津子（國學院大学人間開発学部教授）、明和 政子（京都大学大学院教育学研究科准教授）、佐藤 達全（育英短期大学教授）	6 時間	平成 26 年 8 月 7 日～平成 26 年 8 月 8 日	30 人	平 26-81340-57141 号
千葉県船橋市	本講習は、国公私立の区別なく、幼稚園教育に携わる教諭の多様なニーズに応じた講習、幼稚園教育における専門的な知識や技能の習得、幼稚園教諭としての資質向上のための意欲ある講座とするため①現場に生かす幼稚園教育要領について②理想の教育課程作成についてなどを中心に講義等を行います。	大澤 力（東京家政大学教授）	6 時間	平成 26 年 8 月 5 日、平成 26 年 10 月 10 日、平成 26 年 12 月 12 日	50 人	平 26-81340-57142 号
神奈川県中郡大磯町	本講習では①幼稚園における特別支援②幼稚園における特別支援計画（専門機関・家庭との連携と保育計画）についての講習を行う。	水野 智美（筑波大学大学院人間総合科学研究所准教授）	6 時間	平成 26 年 8 月 26 日	50 人	平 26-81340-57144 号

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
神奈川県 川崎市	＜からだ遊びで発達を促す＞人との触れ合い遊びの中で促される発達要素に着目して、その方法と利点について考えたい。＜日本の伝統音楽・文化を子どもたちに伝えよう＞幼児が日本の伝統的な音楽・文化を楽しく学べる指導の在り方を、実例を通して理解することを目的とする。＜子どもの言葉の発達と発達に即した視聴覚教材＞保育における視聴覚教材（絵本・紙芝居など）の意義、視聴覚教材を活かした保育の実践方法を内容とする。	石濱 加奈子（洗足こども短期大学幼児教育保育科講師）、長谷川 真由（洗足学園音楽大学音楽学部講師）、並木 真理子（洗足こども短期大学幼児教育保育科准教授）	6 時間	平成 26 年 9 月 17 日、 平成 26 年 10 月 15 日、 平成 26 年 11 月 19 日	100 人	平 26-81340-57145 号
山梨県 甲府市	「造形活動・関わりと発見ーあわしの意味ー」をテーマにして、幼児期における造形活動の過程の変化を、内的発見（受けとめ）と外的発見（素材・画材・道具との関わり）という二つの視点から考え、如何に表出から表現に変容するかを考えてみたいと思います。各回のテーマ：第 1 回造形活動のエレメントー子どもの表現（造形）活動の意味ー1、持ち物：クレヨン・クレパス、第 2 回造形活動のエレメントー子どもの表現（造形）活動の意味ー2、第 3 回表出と表現の間にあるもの「あわし」とは何か。	伊藤 美輝（山梨学院短期大学保育科・専攻科保育専攻教授）	6 時間	平成 26 年 7 月 30 日、 平成 26 年 10 月 15 日、 平成 26 年 11 月 12 日	20 人	平 26-81340-57143 号
広島県 広島市	・8 月 6 日広島原爆の日になみ平和についての学習を深める。 ・コミュニケーション不全からくる引きこもり、虐待、自殺や不登校、いじめなど対人関係の悩み、人権の視点をもってどう取り組むべきかを学習する。 ・保育要領について学習する。 ・発達障がいについて理解を深める。 ・ゲストスピーカーとして映画美術監督の部谷京子さん、子ども家庭教育フォーラム代表の畠田富士也さんに講演いただく。	高田 憲治（広島女学院大学非常勤講師）、佐藤 邦子（東京家政大学子ども支援学部子ども支援学科准教授）、木村 正邦（広島文教女子大学教育学部非常勤講師）、寺田 喜平（川崎医科大学小児科教授）、中丸 元良（比治山大学短期大学部非常勤講師）、菊野 秀樹（比治山大学短期大学部幼児教育科教授）、馬場 耕一郎（厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課保育指導専門官）、森下 由規子（明星大学准教授）、七木田 敦（広島大学大学院教育学科教授）	12 時間	平成 26 年 8 月 6 日～ 平成 26 年 8 月 7 日	100 人	平 26-81340-57146 号
山口県 下松市	本講習は、「幼稚園教育内容を深める」ことを目的として、 ①特別支援対象児における個々の理解に基づいた関わり ②発達障害の種類と理解 ③特別支援児の保護者支援と連携 などを中心に講義等を行います。	楠木凡之（北九州市立大学教授）	6 時間	平成 26 年 8 月 23 日	50 人	平 26-81340-57147 号
香川県 高松市	教師は幼児が遊びの中で豊かな経験や学びを積み重ねられるように、援助することが求められる。そのために、幼児一人ひとりの見方、考え方、感じ方などを理解し、幼児の学びの質を高めることが必要である。また、保育現場での様々な視点から、「子どものみとり」や「保育の振り返りと評価」について理解を深める。	柴崎正行（大妻女子大学家政学部教授）、安家周一（公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構副理事長、梅花女子大学心理こども学教授、学校法人あけぼの学園理事長）	6 時間	平成 26 年 8 月 4 日～ 平成 26 年 8 月 5 日	60 人	平 26-81340-57148 号
福岡県 福岡市	保育の質を高めるためには、まず、保育カリキュラムのあり方が重要である。具体的な実践に即して、その課題に応える保育カリキュラムを作成するための要点を、科学的に考えていける内容とした。	加藤 繁美（山梨大学教育人間科学部教授）	6 時間	平成 26 年 8 月 9 日	100 人	平 26-81340-57149 号
大分県 別府市	近年、それぞれの園で特別支援を抱える子どもが多くなったため、幼児教育の他に特別支援教育についてより詳しい知識を身に付け、幼児理解を深める必要性が出てきた。また、以前に比べ、身体能力が落ちてきている傾向があるため、「遊び」をとおし、基礎的な幼児能力を高めるための、専門的な分野による講習にする。	阿部 敬信（別府大学短期大学部教授）、中山 正剛（別府大学短期大学部専任講師）	6 時間	平成 26 年 8 月 11 日	50 人	平 26-81340-57150 号

まさかのときの“JK保険” 全日本私立幼稚園連合会の保険

本保険制度は、全日私幼連が指定した損害保険会社の協力を得て、加盟幼稚園のために開発した制度です。団体契約となっておりますので、団体割引・優良割引が適用されており、個々にご加入される場合より、割安となっております。



- 幼稚園が損害賠償の請求を受けたら ▶ **幼稚園賠償責任保険**
＜施設賠償責任保険＋生産物賠償責任保険＞
- 園児が就園中にケガをしたら ▶ **園管理下の園児傷害保険（O-157補償付）**
＜こども総合保険＞
- 24時間・園児のあらゆるケガに ▶ **園児24保険（O-157・熱中症・地震補償付等）**
＜学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険＞
- 教職員の方の労災事故に対する上乗せ補償に ▶ **労災上乗せ保険**
＜労働災害総合保険（法定外補償保険）＞

このチラシは全日本私立幼稚園連合会の保険の概要についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、必ず「重要事項説明」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。

詳しい内容のお問い合わせは、下記引受保険会社まで

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上
三井住友海上火災保険(株)
TEL:03-5282-8537



**TOKIO MARINE
NICHIDO**

東京海上日動火災保険(株)
担当課:公務第二部 公務第一課
TEL:03-3515-4133



エース保険
ace insurance

エース損害保険(株)
TEL:03-6364-7110



**SOMPO
JAPAN**

(株)損害保険ジャパン
担当課:団体・公務開発部 第二課
TEL:03-3593-6453

平成25年1月作成 12-T-10552